

特定非営利活動法人ぴーす

平成 28 (2016) 年度 事業報告書



1 ページ～	はじめに ■ぴーすの事業報告書をお読みくださる方へ ■ぴーすの組織図
3 ページ～	子ども・本人が、利用・参加するもの ～育てる・高める支援～ ■主に、幼児期の子どもたちが参加したもの ■主に、学齢期の子どもたちが参加したもの ■18歳以上の本人も参加するもの ■.自主活動
17 ページ～	保護者・支援者が、利用・参加するもの ～寄り添う・高める支援～ ■保護者・支援者向けに届けたもの
20 ページ～	相談に対応するもの ～寄り添う・つなげる支援～ ■相談に対応するもの
23 ページ～	情報を提供するもの ～伝える・広げる支援～ ■主に、来所する方への情報提供 ■主に、インターネットでの情報提供
27 ページ～	啓発や連携をするもの ～広める・つながる支援～ ■講演などへ講師を派遣したもの ■他機関・団体との協働、協力したもの ■会議や集まりの一員として参加したもの
31 ページ～	その他 ■NPO 法人として ■各事業（部門）より ■ぴーす職員が受講等した研修 ■各事業の説明
37 ページ	平成 28 年度 年間利用者実数・延べ数・活動数等 集計

平素はピーす活動への温かいご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。平成28年度（第12期）の活動報告書が完成いたしましたので、お届けいたします。

この『ピーすの活動報告書』。昨年度より「報告の仕方」を大きく変更をしました。以前は「1つ1つの事業・グループで報告を作成し、それを順番に掲載する形」でしたが、昨年度から『参加や利用をする人たち』の目線で「誰のために何をしているか」がわかるような並べ方に変更しています。

他の法人とは全く違う形になっておりますが、ピーすらしく「内容をわかっていただく」ことを優先し、事業形態にとらわれず、利用する人たち目線での報告になっておりますことを、ご了承ください。

さて、平成28年度ですが、ピーすは2度目の『運営方針の更新』をして、新しい方針を掲げ、活動に取り組みました。

平成17年設立のピーすは、設立6年目の平成23年度に1度目の『運営方針の更新』をしました。その理由は、翌年の24年度からの「児童福祉法による障害児サービスの開始」「堺市における相談支援の再編」という社会情勢に合わせ、ピーす内の事業を自分たちらしく展開するためでした。以下は、その際（平成23年度）に掲げた『ピーすミッション』です

ピーすのえんばわ支援 コンセプト① 子どもの成長力を“えんばわ”する
コンセプト② 家族の暮らしの力を“えんばわ”する
コンセプト③ 周囲の支援力を“えんばわ”する

1度目の更新を元に、平成23～27年度までの5年間に、事務所の移転、児童デイ・地活の開始、ぽっしゅ開店を実施。その1つ1つの活動・事業の中でミッションの実現を行いつつ、常にニーズに合わせた「施策提言」を行い続けた結果、「ぴりーダー養成事業」「あい・すてーしょん」「キッズサポートセンターのSV」なども実施することができました。

その1度目の『運営方針の更新』は、社会情勢に合わせたもの、つまり外からの影響を受けてのものでした。

しかし、平成28年度の2度目の更新は、内から湧き上がるようなものでした。ピーすの10年（加えてぽっぼの20年）を振り返り、初心のボランティアイズムを再確認し、1度目に更新した『ピーすミッション』を元に「自分たちをミッション」を見つめなおした上での更新となりました。以下が、その際に確認しあった内容です。

ミッション（情熱） ◆ピーすは「母親だから、〇〇がわかる」と「母親だけど、〇〇ができる」のハーフである。
◆「エンドユーザーである子どもの夢」を実現する集団でありたい！
◆計算の前に、「やりたい」という気持ちを大事にする人たちが活躍する法人でありたい
ミッション（使命） ◆ピーすらしいプロフェッショナルで、「エンドユーザーである子どもの夢」を実現する
◆ピーすで現実化されている「さりげない自己実現」を伝え、各々のチャレンジを広め、「それが当たり前」とみんなが思う社会を作る。
◆新しいチャレンジ⇒『障がい者と生きる家族の暮らし』の新しい形を探る

また、**ビジョン**として、NPO活動に重く視点を置いて今後の活動を展開すると構想するとして、数年かけてCB活動を大きく成長させる計画を立てました。

以上のような『運営方針』を元に、この一年間実施してきた事業・活動の内容をご報告いたします。

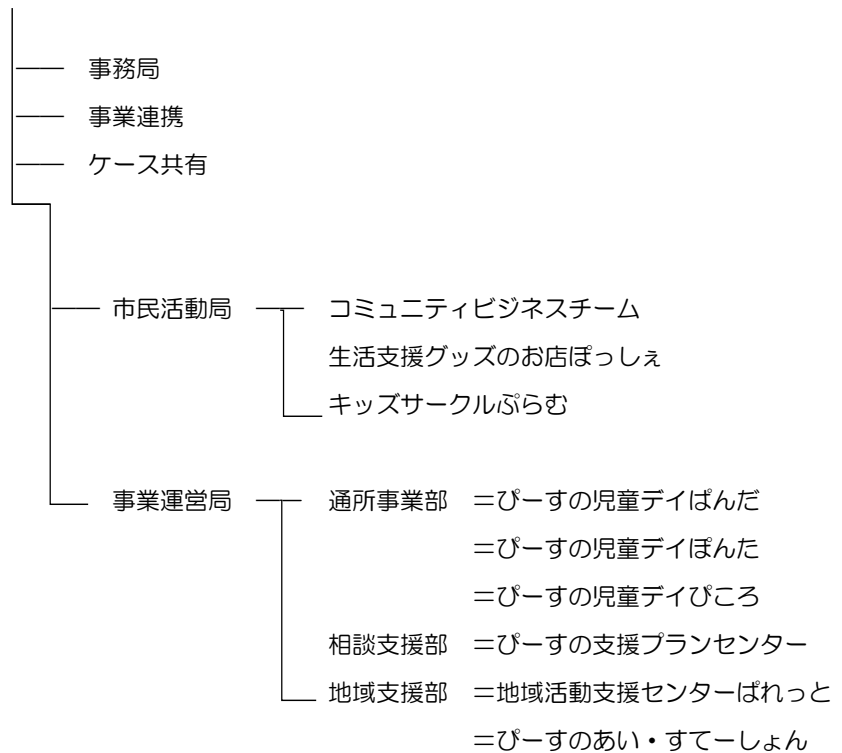
大変分量の多い報告になっておりますが、最後までお読みいただくと幸いです。

平成29年6月

NPO法人ピーす 理事長 小田多佳子

びーす組織図

総 会 ——— 理事会 ——— 理事長



	本人が利用	家族が利用	相談対応	情報提供	啓発・連携
地域活動支援センター ぱれっと	○	○	○	◎	◎
キッズサークル ぷらむ	◎	○	△		
びーすの児童デイ ぱんだ・ほんた・ぴころ	◎		○		
びーすの支援 プランセンター			◎	◎	
生活支援グッズのお店 ぼっしえ	△	○	○	◎	◎
びーすの あい・すてーしょん *	○	○	◎	◎	

■主に、幼児期の子どもたちが参加したもの ■

乳幼児期に発達の遅れやつますきに気づいた保護者は、大きな不安におそわれます。ぴーすは、その不安な心に寄り添いながら、幼児期の「日々、成長する子ども」にとって最適な環境を用意することを保護者といっしょに考えて、次のステージへつなぐ支援を実施しています。

平成28年度に実施した内容は、以下のとおりです。

1：ぴーす〈水曜の親子ひろば〉

ここ数年の状況を見て、ぴーすは「乳幼児期に不安を抱いた保護者には、年度のどの時期でも対応してもらえらる&定期的開催される、そんな親子ひろばが必要！」と考え、平成28年度は、ぴーす内の事業・チームが連携し、毎週水曜日に定期的開催する親子ひろばを実施しました。

プログラムの基本は『おもちゃ図書館』。たくさんのおもちゃを用意して親子で自由に遊べるよう準備。相談員や遊びスタッフも常駐して「障害が発見されたばかりの傷心のお母さん」の相談に対応、「行く所がなく、家に閉じこもりがちな親子」にホッと安心できる時間を提供できるようにしました。

■年間実施回数 39回

■年間参加延べ数 74組（親子の組数）

年度が進むにつれ、保健センターからの紹介などで訪れる親子が増えました。また遊びに来る親子も、回数を重ねるごとに明るくなっていきまいた。やはり、週1回の定期開催は必要だ！と、今、強く感じています。障害や発達の遅れを発見されたのに行く所がない、心の傷に対応してくれる所がほしい・・・、そんな親子は毎年、一年を通じて現れます。それにタイムリーに・丁寧にに対応するには、今後も『週1回の親子ひろば』を継続したい。そんな思いから、ぴーすは年度末に「独立行政法人福祉医療機構（WAM）の社会福祉振興助成のモデル事業」の申請。無事に「全国12団体」の中に選ばれました。平成29年度は（一年限りですが）WAM助成事業として、親子ひろばを展開する予定です。



2：あいすて〈デイでの個別療育体験〉

昨年から引続き、障害児等療育支援事業（あい・すてーしょん）の「外来による療育」として、デイ事業所での『個別の療育体験』を実施しました。

- ・保護者がわが子に療育が必要かどうかを悩んでいる
- ・サービス利用を申請中だが、今すぐ療育を受けたい

という場合に、ぴーすの児童発達支援事業所のプログラムに参加し、実際の療育を体験してもらうというものです。

ぴーすの児童発達支援は基本「母子分離」です。お子さんの多くは「保護者以外の大人との関わりが初めて」になります。そこで、まずは「家族以外の大人もおもしろいな、いいな」と思ってもらえるよう、大人との関係づくりを進めていながら、お子さんのそれぞれの成長に合わせ『身辺自立、言葉やコミュニケーション』などの発達を促す療育指導を行いました。

保護者については、療育体験中の担当相談員を配置しました。これにより、その親子に合った対応・タイムリーに応じる相談をすることができました。

■年間参加延べ数 105名

3：ぴーすの児童デイ〈平日の児童発達支援〉

受給者証を取得しサービスを利用する児童発達支援。

ぴーすでは、平日に固定メンバーで個別の支援計画のもと、療育を実施しています。平成28年度も、多くの子どもさんに利用していただきました。

平日児童発達支援の目標は

- ・健康な身体作り
 - ・身辺自立の練習
 - ・大人との信頼関係の構築
 - ・豊かな幅の遊び体験
- もう一つの目標として
- ・保護者支援

も大切にしています。

利用される形として

- ・地域の保育所・こども園等に通園している子が、専門的な療育を受けるために、週1回～2回ぴーすを利用
- ・児童発達支援センターのべんぎん教室や他事業所と併用してぴーすを週2～4回利用

年度当初は、びころの1クラスで開始しました。平日の児童発達支援は、毎年月を追うごとに利用者が増えます。平成28年度も9月からべんだ、びころの2クラスで活動しました。



ばんだでは、1～2歳児の「身辺自立」を目標に、排せつ、着替え、食事など、少人数できめ細かい支援を心掛けました。日に日に成長していく子どもたちを見ることができました。

びころでは、3～4歳児の「設定保育を通してのコミュニケーション能力の向上」を目標に活動しました。

「お散歩」「公園あそび」「室内でのアクティブ活動」などの大きく身体を動かす遊びと、「小麦粉粘土」「絵の具遊び」などの手指の細かい操作活動の2本立てで取り組みました。

行事として

- ・12月のクリスマス会
- ・2月のお別れ遠足
- ・3月のスライドショー上映 を実施しました。

行事には保護者も参加され、子どもたちが楽しく参加してくれたのはもちろんのこと、保護者同士の交流の場にもなったようです。



担当スタッフとして平成28年度を振り返ると、3年前より保育園と並行でびころを継続利用しているお子さんが、年度末に就学を迎えたことが印象的でした。冬頃には、本人も保護者も就学に向けての心の揺れが随所に見られましたが、びーすの支援プランセンターとも協力して、そのサポートをさせていただき、春にはピカピカの一年生として、びころを巣立っていかれました。この3年、ずっと見守り続けることができたこと、そしてそのお子さんのたくましい成長ぶりに、大きな喜びを感じました。これからの小学校での活躍を願っています。

また3年前に『平日の児童発達支援』を利用していたお子さんが、その後『児童発達支援センター』へ通園されていましたが、就学を機に『びーすの放課後デイ』の利用者となって戻ってきてくれたとのこと。幼児を担当する指導員として、とても励みになる嬉しいことでした。

■年間利用契約者 実数 21名

＝A スタッフより＝

ばんだでは『排せつのトレーニング』の表を作り、20分おきにおまるやトイレに誘いました。

最初は戸惑う子ども、様子も見ながら促すうちに、だんだんスムーズにおまるに行けるようになりました。排泄後にスポンを履くことも、最初は全介助だったのが、スポンを上げることから練習し、少しずつできるようになっていきました。ごほうびのシール貼りも有効だったようです。

＝B スタッフより＝

びころでは、利用が2年目になる子もいて、さらにスタッフとの関係が深まったように感じます。



また、活動を通して自分の気持ちを言葉やゼスチャーで伝えることが徐々に上手になってくれました。

コミュニケーションの引き出しが増えると、同世代のお友達ともリラックスして関わられる様子が見られ、固定メンバーで活動するメリットを強く感じた年でもありました。

4：ばれっと くもちゃ図書館スペシャル

障がい児の母親たちのボランティアグループ『くもちゃ図書館ぼっぼ』と協働で実施したプログラム。

ぼっぼは平成9年から活動を開始したボランティアグループ。

活動目的は「障がい児が主役になれること」、活動内容は「くもちゃで遊ぶだけ」。そんなシンプルな活動を、地道に続けてきました。



平成28年度は、ばれっとの土曜日プログラムとして第3土曜日に開館しました。

■年間実施回数 12回 ■年間参加延べ数 87人

■以下の『その他の活動』合わせての延べ総数 154名

その他活動 内容	年間	延べ数
くもちゃのクリーニング	9回	29名
運営会議	9回	29名
総会	1回	9名
合計	19回	67名

ボランティアグループのぼっぼは、最近、開館日のメンバー確保が難しいと悩んでおられました。そこで、びーすとの話し合いを重ねた結果、平成28年度からは「くもちゃの管理＝ぼ

っぽ「場所提供、開館日の進行管理＝ぴーす」と、担う部分を明確にすることとなりました。

ぽっぽボランティアさんには、今後も楽しい・ステキなおもちゃを揃えてもらえるよう、期待・応援しています！



5：ぴーすの児童デイ〈土曜のぴころ〉

ぴころの土曜日は、幼児～小2程度のお子さんを対象に、アクティブ・音楽・アート・おやつクッキングの4つのプログラムを行っています。



ぴころ土曜日は、常に子ども達にとって自分を表現できる場所
自分らしく楽しめる場所
自分を認めてもらえると感じられる場所
であることを大切にしています。

そのため、どのプログラムも「一人ひとりが見通しを持てる支援」として、スケジュールや手順書を用意。また「チャレンジしやすい環境整備」として、個々に合わせた道具や材料の工夫をしています。

以下、プログラムの内容と報告です。

＝＝ アクティブ室内活動 ＝＝

室内で、身体を思いっきり使った遊びを行う『アクティブ活動』です。「平均台」「ウェーブ平均台」「飛び石」などを使い、いろんな運動をしています。家庭ではできない「ぶら下がり」集団だからこそおもしろい「ボールあそび」など、楽しんで身体を動かせるよう工夫しています。

平成28年度は、季節にちなんだ活動（1月なら羽子板、2月は鬼的当てなど）も取り入れました。普段している活動とは違った活動という事で、戸惑う姿も見られました。しかし、やり方がわかると、積極的に楽しんでくれる姿も見られ、いつもと違った子ども達の様子を見る事もできました。

＝＝ 音楽 ＝＝

集団で音楽を楽しむプログラム。音楽に合わせて「歩く・走る・回る」、リズムを感じながら「全身を動かす」、楽器を使って「リズム演奏」など、小さいお子さんがやりたい！と思えるような工夫をこらし、みんなで音楽を楽しんでいます。

平成28年度も、これまでと同じく曲に合わせて身体を動かしたり、鳴子や太鼓を使って演奏したりして、音楽を楽しむ活動をしました。季節にちなんだ音楽を聞く時は、知っている曲の時に一緒に歌う子ども達の姿も見られました。

＝＝ アート ＝＝

年齢や個々の好みやスキルをふまえたアート制作活動です。作品は『できた！！』という達成感を感じられるように工夫。

時には、季節を感じられるような壁面づくりをしたり、おもちゃをつくったりと、作品の幅もさまざまに用意して、小さなお子さんがいろんな経験をできるように工夫しています。

平成28年度は、季節や行事にちなんだ制作活動をしました。秋には、本物のどんぐりを使うことで、子ども達に季節を感じてもらえるように工夫したりもしました。完成したおもちゃで子どもたちが遊んでいると、スタッフが思いもよらなかった楽しみ方を発見する姿も見られ、子どもってすごいなあと感じました。



＝＝ おやつクッキング ＝＝

食物アレルギーに配慮しながら、子どもたちが好きそうなメニューを計画！クッキーやホットケーキ、おやつ春巻きなど、甘い物だけでなく、惣菜系のおやつ等もメニューに取り入れています。お家では食べたことがない、苦手なものでも「自分で作った！」「お友達と一緒に！」だから、食べることができたという子もいます。

平成28年度は、ホットケーキミックスを使ったおやつ、フルーツや野菜を使ったおやつなどを作りました。調理工程は「材料を混ぜる」だけでなく、切る、指す、トッピングする等、手指の操作性にもつながる作業を取り入れたりしました。

■年間利用契約者 実数 36名

■ ■ 主に、学齢期の子どもたちが参加したもの ■ ■

学齢期といっても、小1～高3までと幅広く、年代により子どもたちが抱える課題は違います。自分の力をしっかり伸ばす小学生時代、思春期の難しさがでる中学生時代、大人への移行期となる高校生時代、それぞれに丁寧な支援が必要です。

ぴーすは「年齢相応の活動」にこだわり、どの活動にも「その年齢にふさわしい内容」を意識して行っています。そのため活動の目的に合わせたチームを作り、支援を実施しました。

▼△ 生活力や社会性をアップするための活動 △▼

将来の自立に向けた力をアップするための活動。平日の放課後等デイサービスで行っています。ぴーすには3つの事業所で、年齢や特性に分けたチームを構成し、活動をしています。

すべてのチーム、目的は共通しています。

活動目的：

単なる「預かり」ではなく、一人一人の障がい特性や持っている力（苦手なことできないことも含め）をしっかりと捉え、その力を「より伸ばす支援」、本人がしたいことを「できる工夫」などを行うことで、将来の『その子らしい自立』を目指すこと

活動方針：

「今、楽しく暮らす」ことをベースに、年齢らしい「チャレンジ」や「役目を担うこと」「友達付き合い」ができる環境を整える。一人ひとりの子どもの「こうなりたい」という心の声に耳を傾けて個別支援計画を作成。日々、それを基に家庭と連携しながら支援を行う。

生活力アップをめざし、以下の力を育てる。

1. 家で過ごす力
自分のことは「自分でする」力、家の中で「ひとりで」または「家族と楽しむ」力、家族に「役立つ」力
2. 地域に交わる力
街中で「移動する」「買い物する」「外食する」などにおけるマナーやルール、エチケットの獲得
3. 友人と楽しむ力
同世代の友人、異世代の先輩・後輩の中で、「協力する」「認め合う」力をつける

平成28年度の内容は以下のとおりです。

6：ぴーすの児童デイ <平日のぱんだ>

百舌鳥支援・上神谷支援・地域小学校の小・中学生が利用。

＝＝ 活動の様子 ＝＝

今年度のぱんだは、途中で新メンバーを迎えることはありましたが、顔ぶれが大きく変わることもなく、今まで積み重ねてきた経験の成長が感じられる一年でした。

曜日ごとに、メンバーの雰囲気・特性に合わせたプログラムで活動を行いました。

月曜日は『おしごと』として「ペットボトルのラベル剥がし」それを「近所のイズミヤの回収BOXに入れに行く」ことを行いました。「ラベルを剥がすのが好き」「歩くのが好き」とそれぞれの好みや特性に合わせ役割を分担。ひとりでラベルを剥がす（指先の運動）、車の通る道を安全に歩く（地域に交わる）場面で成長を感じることができました。

火曜日・金曜日のアート活動では、「やってみようかな」と思えるように工夫をする中で、『野菜』『季節のモノ』をテーマに個々に取り組み、達成感が視覚的に感じられるように、模造紙に集めて貼り合わせて大きな作品に仕上げました。

長期休暇には『牧場』をテーマにコツコツと作品をためて共同の大きな壁面を完成させることができました。



活動部屋に飾ることで、部屋が明るくなり、作品を見ながら「〇〇したね～」と子どもたちも満足そうに振り返ることができていました。

水曜日は『大阪府立大学への散歩』今年度は人数が増えたこともあり、特性に合わせて2グループに分かれて行いました。低学年グループには、わかりやすいように視覚的に散歩のルールを伝えながら、

『みんなで散歩』が楽しく感じられるようにしました。高学年グループは、その日の様子に合わせて「大回りコ



ースにする?」「こっちに行ってみようか?」などコース変更をしてみました。元々は、変化に弱い子が多いのですが、戸惑うことなく受け入れることができるようになり、季節の移り変わりや体を動かす気持ち良さを感じているようでした。

木曜日のクッキング活動では、みんな大好きホットケーキ作りをし、食べることはもちろん自分でトッピング・ソースなどを選ぶ楽しさを味わってもらいました。

クッキングは、長期休暇に少し時間のかかるものを作り、ワクワクした気持ちを味わえるように取組みました。その中で、個々の意外な好みがあったり、手順を覚えて必要な物を自ら準備してくれたりする姿が見られました。

それぞれの活動に共通して感じたこととして、体調や気分（なかなか気持ちが乗らずに参加がしづらい）もありますが、それも受け止めて、待つことで「やってみよう!」「行こう!」と自ら思うことが、意欲的な参加に繋がるということ。また、後輩は先輩を見て真似をする、先輩は後輩に譲るなども繰り返す体験することで、身に付くものだと感じることができました。

■年間利用契約者 実数 20名

== A スタッフより ==

子どもたちのいろんな一面が見られた一年でした。

アートでは、苦手な子に楽しく取り組めるようなものを用意すると参加できるようになったり、自らやり方をアレンジする子もいたり。できあがった作品は、一人一人個性的で楽しいものになりました。



コミュニケーションとしては、消極的であまり活動に参加できない子に、難しいことを「手伝って」と伝える練習をしていたのですが、それを伝えられるようになった後は、自ら積極的に次の工程に取り組むようになったのは、うれしい姿でした。

7：ぴーすの児童デイ <平日のぼんた>

堺支援学校・泉北支援学校・西浦支援学校の高校生、百舌鳥支援学校の中学生が利用

== 活動の様子 ==

平成28年度は、それまでびこで活動していた高校生やばんだの中学生が移動をしてきて、新しいグループとして開始し

ました。

活動内容は、ぼんたやびこで行っていたプログラムをメインに、子どもの特性や活動時間に合わせて

月曜日は「ペットボトルのリサイクル」

ラベルをはがし、西友へ持っていく

火曜日は「キャップのリサイクル」福祉プラザへ持っていく

水曜日は「おやつクッキング」

木曜日は「ぼんたで使う備品の買い物」などの集団活動

金曜日は「アート」などの個別活動に取り組みました。

集団活動は「開始時間に同じ場所に集まり全員で取り組む」「順番を守り友人のペースに合わせて歩く」ことで、自ら友人を意識する姿が見られるようになりました。

活動の終わりには「お手伝い活動」。それぞれ担当を決め、みんなでぼんたの家を掃除しました。4月当初から「担当表を用いて、何をするかを自分で選択する」ことや、「手順書をもとに、ひとりで作業をこなす」ことを目標にして、一年をかけて取り組みました。今では、「お手伝い」タイムになると、担当の掃除用具を自ら取りに行く姿もみられるようになりました。

今後もこの活動は引き続き行い、また新しいことに挑戦し、できることを増やしてもらえたらいいなと思います。



== A スタッフより ==

おやつクッキングでは、月ごとにメニューを変え、ホットケーキミックスをメインに『ホットケーキ』『ドーナツ』『カステラ』などを作りました。毎回新メニューは「気に入ってくれるかな?」と不安でしたが、子どもたちがおいしそうに食べる様子を見て「このメニュー、ヒットしたな」と思ったり、「ちょっとイマイチだったかな」という時もあったり。スタッフも一

緒に楽しく作ることができました。

長期休暇は、時間のかかるおやつ作りに挑戦。春休みには「プリン作り」をしました。作っている途中は、なにを作っているのかわかっていない表情で、本当にこれがプリンになるの？という様子でした。

通常活動では作った後にすぐに食べられたのですが、プリンは「冷蔵庫で冷やす」ことが必要であったため、その間に違う活動を行ないました。すると、プリンのことが気になるようで、何度も冷蔵庫を見に行ったりして・・・、わくわくしている様子が伝わってきました。



また、今まであまりクッキングに意欲のなかった子が、様々なメニューを作ることで興味が出たようで、「やってみたい」という様子になり、秋頃から積極的に活動に参加してくれるようになったことは、とても嬉しかったです。

■年間契約者数：14名

8：ぴーすの児童デイ <平日のぴころ ドレミファポップ>

主に地域の学校に通う小学生から高校生が利用

== 活動の様子 ==

平日の活動内容は、基本「おやつ、学習（宿題）、みんなでトーク（ミーティング）、そうじ」です。みんな違う学校なので、普段は来所する時間がバラバラですが、それぞれが来所するたびに「今日は誰がくるの？」「あ、〇〇君、髪型変えたね！」「〇〇ちゃん、遅いね」など、声をかけあう姿には仲間意識を感じられます。おやつ時間は、学校であったことや世間話などをにぎやかにおしゃべり。学習の時間はそれぞれ『プリント、宿題』のほか、自分の興味があることをパソコンで調べる子や自作のノートを作って書き込む子もいます。



平成28年度の特徴としては『みんなでトーク』というミーティングが定着したことです。これはテーマを設けて、全員参

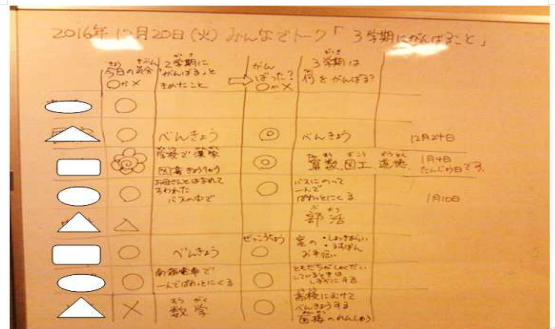
加で話し合う活動で、毎回、必ず行っています。目的は「人とのやりとり」を含めた『社会性』を育むこと。『言葉・コミュニケーション・社会性のスキル』を伸ばすために取り組んでいます。

具体的には、『人付き合いのコツ』『困難な場面を回避するためのスキル』『良好な人間関係を自ら築く力』などを身につけるため、いろんなテーマについて話し合いをします。テーマは「季節の行事」「集団活動の内容決め」「最近のニュース」などを設定しました。

ドレミファポップの子どもたちは、みんな「言葉」での会話が可能です。でも「言葉」を持っていてもうまく表現できなかったり、感情のコントロールが苦手だったり。なので、「みんなでトーク」では、語彙を広げるゲームをしたり、自分の意見や気持ちを伝える場面を作ったりしながら、個々のスキルを伸ばすよう支援しています。

初めの頃はなかなか言葉が出ず「わからん」「興味ない」と答えていた子も、回数を重ねるごとに、他の子の意見を聞きながら、自分の意見として発表できるようになっています。

毎回のトークを通じて「それもありがあ〜」「間違ってもいいんだ」などを知り、『みんなでトーク』は、どんどん進化中！これからも楽しみです。



早帰りの日や学校の休日は、普段できない「時間をかけて行う活動」をしました。例えば、府大に散歩。ベンチでティータイム、サッカーやキャッチボールを楽しみました。クッキングにもチャレンジ！本格的なインド料理やアメリカンクッキーなどを作りました。それぞれが、きざむ役、こねる役など、それぞれ得意なことを担ってもらいました。



夏休みは『流しそうめん』をテーマに活動。そうめんの器や流しそうめんの道具を手作りし、夏休み後半に『福祉会館での流しそうめん大会』を行ないました。

年度末の春休みには、思春期・青年期を意識して『社会見学：JR西日本の特例子会社へ』や『SAY（性・生）の会 ワークショップ：えんばわめんと堺の協力』も行いました。

『SAY（性・生）の会ワークショップ』は、中学生以上の利用者が対象。思春期真っ只中の彼らは、口には出さないけど、多かれ少なかれ興味のある内容です。初めは照れたようで、クスクス笑いながら話を聞いていましたが、質問されるとちゃんと返答。「保健の時間みたい（笑）…」なんて、言う子もいました。ロールプレイはしっかりと注目し「それはアカンと思う」など意見を発表していました。終了後はみんな、「勉強になった」とのことでした。

■年間契約者数：11名

9：ばれっと <子どもたちのワークショップ>

ばれっとが主催し、他団体とコラボ企画したワークショップ。平成28年度は、NPO法人えんばわめんと堺／ESおよび一般社団法人POROとコラボして、『防災』をテーマにしたワークショップを実施しました。

<楽しく学ぼう！非常時のコミュニケーション>

スライドを見ながら「棚から花瓶が落ちてきたら？」「地震が起きたらどうする？」などの質問に、それぞれ発表してもらいました。

今回参加してくれたお子さんは防災についてもよく知っていて「危ないから落ちないようにする」「机の下に隠れる」など具体的な意見がいっぱい出ました！



スライド学習をしたあとは、ロールプレイに挑戦！自宅の部屋を見立てた場所で、物が落ちてきたら、即座に頭を座布団などで守ってくれました！



驚いたのは、子どもたちの周りの人を気遣う優しい気持ち。自分だけが我先にと逃げるのではなく、隣の人に座布団を渡したり、後ろの人が怪我をしないように足元に布を置いて逃げたり、スタッフも見習いたいと思うくらい冷静で余裕のある姿は、とても遅しかったです！

復習のゲームもしました。もちろん全員大正解♪防災カードと防災マスター証書ももらって、みんな笑顔で終了となりました。

参加後のアンケートでは、自宅でご家族に習ったことを教えた子もいれば、「地震のときは守ってあげる！」と頼もしい発言をした子もいたそうです！

■参加者数：9名

主に、学齢期の子どもたちが対象の

▼△ 趣味・余暇の力を育てる活動 △▼

人生を豊かにする『趣味・余暇』。ぴーすは、その趣味や余暇の力や、同じ趣味をもつ友人とつきあう力を育成する活動を大切にしています。

例えば『ぴーすの児童デイ』の土曜日は、3つの事業所それぞれで「年代や障害の状態に合わせたチーム」を構成。

前述の『びころ』では、幼児から小学2年の小さな子どもたちが「運動、音楽、アート、クッキング」にチャレンジ。このチームは予約制なので、それぞれのお子さんがいろんな内容に参加し、その体験の中から「その子の好きなプログラム」を見つけてもらっています。

そして小学3年生になると、ぱんだやぼんたの「メンバー固定」の「スポーツ、音楽、アート、料理」のチームに移動をします。高校3年生まで利用することができます。

『ぱんだ』では〈言葉によるコミュニケーションが可能な子〉が、集団で・仲間と協力しあいながら活動するプログラム。

『ぼんた』では〈個別の介助が必要な子〉などが、自分の趣味力のアップしながら、余暇を楽しむプログラムを実施しています。プログラム内容は、『びころ』からのつながりを持たせ、『スポーツ、音楽、アート、料理』です。

平成 28 年度の内容は以下のとおりです。

10：びーすの児童デイ <土曜のぼんだ>

<言葉によるコミュニケーションが可能な子>の集団活動。

== スポーツ ==

身体を動かす楽しさを体感。スポーツ全般への興味関心を高められるよう、いろんな競技の体験、観戦なども取り入れ、スポーツを楽しむ力をつけるプログラム。

平成 28 年度は、定番になっているマラソン活動を継続しつつ、夏は『全日本卓球大会』の観戦に行きました。普段なかなか見る事ができない貴重なプロの試合に、みんな興奮！ポイントが入った時の「ッサー！！」を、メンバーみんなで声に出して楽しみました。

秋頃には『森の散策活動』で、昆虫や植物に触れ合う体験をしました。

アクティブな遊びからスポーツ観戦を通じて、今後も『スポーツ』を楽しみ、新たな興味・関心になればと思います。

== アート ==

絵画・書道・工作などの製作活動。達成感のもてる作品を作ることで創作意欲を高め、幅広いジャンルに挑戦することで興味関心の幅を広げる、アートを楽しむ力をつけるプログラム。

以前はスタッフ提案の『お手本』を見て行っていたのですが、平成 28 年度は、書道も・絵画も「自ら考え、躊躇せず筆・指を動かす、それぞれの『ヒラメキ』で個性的な作品をつくる」こと。これにより、子どもたち自身が「なぜこうしたのか？」などの作品に対しての『思い』を発表できるようになりました。より達成感を味わえるようになったようです。



== クッキング ==

自分たちの昼食を、集団で協力しあいながら調理する活動。みんなでメニューを選び、役割を決め、全員で調理を行い、ともに味わうプログラム。

平成 28 年度はさらにチームを増やし、低学年の子は「調理より、盛り付けをメインに」や「昼食ではなく、季節にあった

おやつ作り」低学年の少人数チームは「1つのメニューに、少しずつアレンジを加えながら発展させる」というチームが加わりました。



以前から活動している高校生がいるチームは、平成 28 年度も子どもたちが主となってメニューを決め、調理や具材の買出しを含め、それぞれの担当も自分たちで決めて取り組みました。チームプレイの力がどんどんアップしています。

一年間で取り組んだメニューは、『お好み焼き、たこ焼き、焼きそば、ピザ、炒飯、シュウマイ、餃子、ハンバーグかき揚げ、フライドポテト、チーズカレー、オムライス』。

メニューを決める話し合いでは、自分がこれまでに作った事がある物、食べてみたい物など、様々な案が出ます。なかなか決まらない事もあり、最終的には多数決で決める事もありました。そのなかで、発言が少ない子どもも徐々に意見を伝える事ができるようになり、改めて継続する事が力に繋がる事を実感しました。

■年間契約者数：18名



11：びーすの児童デイ <土曜のぼんだ>

ぼんだでは、<個別の介助が必要な子>などが活動。

プログラムメニューは、ぼんだとほぼ同じですが、集団ではなく「スタッフと1対1」で「個人のスキルアップ」をめざして活動しています。

ぼんだと違うのは『音楽活動』があること。音楽専門の先生に来ていただき、個人レッスンを受けています。

== 音楽 ==

音楽の先生による個人レッスン。レッスン内容はお子さんによってレベルを変えています。例えば、ピアノ演奏につながる『指の運動』『指の認識練習』、楽譜を読む力をつけるための『音階、音と記号のマッチング』『五線譜に書く練習』、そして『ピ

アノで曲を演奏』などです。ピアノ以外では、太鼓や鳴子を使用した『リズム感を養う練習』もしています。

お子さんによっては、太鼓を元気よく叩く子、鳴子の音がすばらしい子もいるし、演奏するピアノの音がよく聞こえる子もいます。みんな、繰り返すうちに少しずつ自信がついてきたのか、今ではやる気も満々！意欲的に取り組んでいます。

Aくんは、課題曲をピアノで「片手で弾く」をマスターしたので、次は「両手での演奏」に挑戦！どんどん演奏力がレベルアップしています。

障害が重度のBくんは、指の運動で「力の加減」をコントロールする練習から開始、今では、ピアノで「ド～ソまで弾く」ことができるようになりました。また太鼓が大好きで、曲に合わせて楽しそうに叩いています。

== アート ==

前年度から引き続き、『チューリップのメッセージカードの作成』と『習字』を行っています。

お子さんのレベルに合わせて手順書や見本、折り紙の大きさなどを変えて活動しました。

同じ物を繰り返し作ることで作成力がアップしていきますが、その上に、いろんな文字を書きこむ、色を変えるなどアレンジをしていくことで、『作る・書く力』が伸びていきました。



== スポーツ ==

平成 27 年度は『府大』に移動して大学内をマラソンしていましたが、平成 28 年度は『大仙公園の広場』に変更し、「広場の周りを走るマラソン」「スタッフと 1 対 1 で行うキャッチボール」などを行いました。

また年度途中には、新しいメンバーが入ったのをきっかけに、地域散歩（ウォーキング）もメニューに追加。マラソン以外の「身体を動かす楽しみ」や「地域に交わる力」を育むことができました。

== クッキング ==

ぼんたでの昼食クッキングのメニューは「カレーライス」。1つのメニュー、同じ調理工程を繰り返すことで、「一人でできる」ことを目標に取り組んでいます。

手順書は、利用者に合わせたものを準備。個々にそれを確認しながら、一人ひとりに合った道具（皮むきや包丁）を使用して、材料を切ります。継続して利用している子は、ピーラー・包丁の使い方が上手になってきて、一人で最後まで行うことができるようになりました。難しいところは、ちゃんとスタッフに「ヘルプを出す」のも上手になっています。

工程は同じですが、仕上げはルーを変えて、カレーだけでなく、シチューなどアレンジしながら仕上げました。

■年間契約者数：15 名（平日利用者含む）



12：ぷらむ〈自主グループ ランニングチームOne〉

堺市の補助事業（障害児放課後活動等支援事業）を受け、活動をしている『キッズサークルぷらむ』には、いくつかの〈自主グループ〉があり、土曜日に「自分の好きなこと（趣味）を、同じ好み（趣味）の友人と楽しむ」グループ活動を行いました。それらの平成 28 年度の様子を報告します。

1 つ目の紹介は『ランニングチームOne』。名前の通り、ランニングが趣味の知的障がい・発達障がいのある小学生～高校生とそのお母さんたちが一緒に活動しているグループです。「楽しく身体を動かして汗をかくこと」を目標に、ランニングに取り組んでいます。毎月の練習の他にも、公的なマラソン大会へも積極的に参加しました。

＝参加したお母さんの感想＝

「子どもに何か運動する機会を…」という思いから活動し始めましたが、練習を重ねていくうちにメキメキと力をつけていく子どもたちに影響され母たちもだんだんと「走ること」が楽しくなり、子どもに負けじと体力作り（維持？）に頑張るようになりました。



■年間実施回数 9回

■年間参加延べ数 66 名

13：ぶらむ〈自主グループ カラフル〉

『カラフル』は、重度知的障がいの小学生2組で、ダイナミックなアート活動に取り組んだグループです。

「お友だちと、大好きなアートを、おもいっきりやってみよう！」と、1年前から活動を開始しました。



== 参加したお母さんの感想 ==

1～2カ月に1回、アート活動をしました。決まった活動を行うのではなく、好きな画材で思いのままに絵を描いたり、見本を見ながら一つの絵を仕上げたり、子どもたちのやりたいことをそれぞれで行いました。アートの後は、コンビニで「自分で選んだご飯」を買ってきて、一緒に食べました。気候の良い時には、最後に散歩に行くことも！親子でのんびり過ごす貴重な機会になりました。

■年間実施回数 3回

■年間参加延べ数 12名

14：ぶらむ〈自主グループ いるか〉

『いるか』は重度知的障がいの小中学生の自主グループで、月に一回、ボランティアさんと一緒に、動作法を実践しています。日常生活の中での個々の課題に合わせてながら、適切な身体の動き（力の抜き方や入れ方）を学んでいます。

=参加したお母さんの感想=

毎回続けて参加することで、自分の身体に向き合うことが上手になってきました。普段は物事に集中するのが難しいわが子ども、活動時間中はボランティアさんとコミュニケーションを取りながら、心も身体もリラックスでき、よい表情をしています。

■年間実施回数 7回

■年間参加延べ数 93名

15：ぶらむ〈鉄道クラブ〉

『ぶらむ』と言えば、〈鉄道クラブ〉。この事業開始当初から、とにかく「鉄道が大好き！」な子が集まって、いっしょに遊ぶ

というクラブ活動を続けてきました。

平成28年度の『ぶらむ』は、堺市の補助事業の内容が代わり、土曜日と長期休暇だけの活動になったことから、ぶらむ主催で行ったプログラムは、この〈鉄道クラブ〉だけとなりました。この数年で少年からたくましい青年に変わった参加者もいる中、平成28年度も「趣味の楽しさを分かち合いながら、それぞれが友人関係を築く」という、良いムードで活動しました。

■年間実施回数 62回

■年間参加延べ数 116名



★★ お知らせ ★★

『キッズサークルぶらむ』が補助を受けていた「堺市障害児放課後活動等支援事業」は、放課後等デイサービスが年々拡大していくにつれ、実施団体が減っていききました。最近では「実施団体が、ぶらむだけ」の状態でした。ぴーすとしてはこの事業の特徴、①受給者証がいらない、②ボランティアで実施できる、③保護者が主体となれるなどに、市民のニーズがあるとして活動を続けてきました。しかしこの度、堺市より連絡があり、この補助事業自体が平成29年3月末で廃止されることとなりました。

ぶらむ開始から5年、その前の保護者運営の放課後クラブ活動から11年、たくさんの方にご協力・ご支援いただきながら、ぴーすらしい「独自性」を大切に特に『ぶらむ』は、子どもたちの「自主性を高める」ことをメイン目標とし活動をしてきました。活動を通じいろいろなお子さんの成長を見ることができ、またごきょうだいや保護者、ボランティアさんも一緒に、楽しい時間が持てたことを心より感謝いたします。

最後に、これまでの『ぶらむ』の活動を振り返り。スタッフから報告です。

＝ スタッフより ＝

中学生のKくんは、活動当初から〈鉄道クラブ〉を利用して、成長とともにクラブのことをとっても真剣に考えてくれるようになった一人です。今では「小さい子が来たらすぐに走らせて遊べるようにしとくから!」と、遊びに来ると真っ先にレールを組んでくれました。また、その腕前はプロ級です。スタッフもKくんを見習ってチャレンジしますが、上手いかず・・・、「しゃあないなあ、あの部品、貸してみて」と言うKくんに部品を託すと、一瞬にしてプラレール博のようなすごい立体交差に!もう驚くばかりでした!壊れた車両やジオラマを器用に修理する姿も、まさに職人技でした。

「鉄ちゃん」Fくんは、バスで行った京都の鉄道カフェ「デゴイチ」の企画に、とっても意欲的!行く道中の案内役を務めてくれました。バスの中での鉄道クイズでみんなを楽しませてくれる姿は、とってもいきいきしてカッコよかった～!

そんなFくんは、自分からみんなに協力を依頼し、時刻表コレクションにも取り組んでくれました。時刻表収集は「おもしろいこと、しているね～」と、どんどん広まって、全国の時刻表が何千枚と集まりました。Fくんは、それを根気よく整理してくれ、今では貴重なコレクションになっています。

開始した頃に用意できたものは、お古のプラレールと車両だけでしたが、子どもたちが毎回、独自の「鉄ちゃんワールド」を繰り広げてくれ、活動が次々と広がっていった「鉄道クラブ」。「大好きな趣味があるって、とっても素敵!」ということ子どもたちから教えてもらいました。みんな、ありがとうね! (´_`)☆

16: ぱれっと<鉄道スペシャル>

『ぷらむ』と共催で、「鉄ちゃん」応援スペシャル企画としてイベントを開催いたしました。

広いスペースを活かして

- ・プラレールコーナー
- ・ジオラマコーナー
- ・車掌体験コーナー
- ・音鉄コーナー
- ・鉄道クイズコーナー
- ・鉄ちゃんそのくんの
- ・バルーンアートコーナー



などマニア内容がずらり!

2回目には、クイズコーナーが、とってもディープな内容でリニューアルもしました。

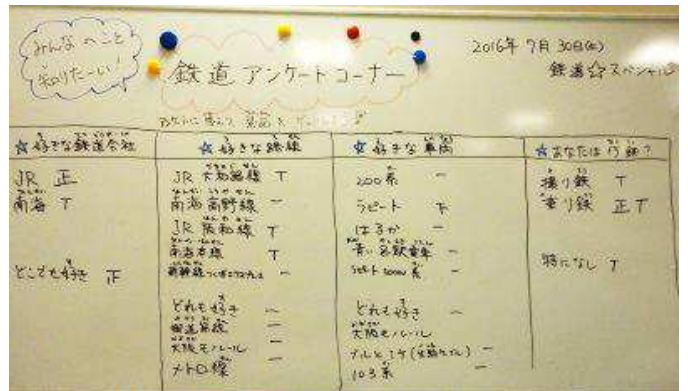
■年間実施回数 5回

■年間参加延べ数 88名

＝ スタッフより ＝

【みんなのことが知りた〜い! 鉄道アンケート】を、クイズコーナーに替えて実施したことがありました。実は、鉄☆スペのスタッフたち、「毎回、こんなにたくさんの鉄ちゃんたちが集まるけど、一体何が一番人気なんやろね」と、気になっていたので、アンケートに答えてもらうことになりました。

内容は、「好きな鉄道会社」「好きな車両」「好きな路線」。結果をホワイトボードに書きだしてみると、やっぱりすごいマニアックなものがでてくるでてる〜!さすが「鉄道☆スペシャル」の参加者たちと、スタッフは大感激でした!



★★ お知らせ ★★

『ぷらむ』の活動終了を受け、平成29年度は〈地域活動支援センターぱれっと〉にて、鉄道クラブ及びスペシャルイベントを引き継ぐこととなりました。

第2・4(土)に鉄道クラブ、スペシャルイベントも年に数回開催する予定です。ぜひ、ご利用ください。



▼△ 特別企画の活動 △▼

■■ 18歳以上の本人も参加するもの ■■

17: ぱれっと くしゃべり場

渡邊元嗣先生（なべさん）をボランティアで迎え、当事者向けに行なっているプログラム。平成24年に開始してから5年、毎月継続して行っています。

「いつでも誰でも自由に」のスタイルで、当事者の方々の日常生活の小さな悩み相談から、趣味や余暇活動を共感し合う場所で、開催日が土曜日なので就労している人も利用しています。

温かく・ひろ～い心で見守る‘なべさん’（精神保健福祉士・学校心理士・特別支援教育士）は、利用者のさまざまな相談にも対応。一人ひとりの利用者が地域の中で「自立した日常生活」「社会生活」を営むことを支援する「しゃべり場」はすっかり浸透し、ぱれっとが素敵な居場所として活用できる貴重なプログラムとなりました。

平成28年度は、他のプログラムとの関係上、月2回の開催となりました。回数が少なくなった分、何か記録が残せないか・・・と思い『しゃべり場新聞』の作成を開始しました。また、ミーティングも見直し、ルールを明確にしたり、利用者主体で活動できるよう工夫もしていきました。

夏には、学齢期活動と共催の「流しそうめんイベント」12月にはクリスマス会などイベントも実施しました。

■年間実施回数 24回

■年間参加延べ数 228名

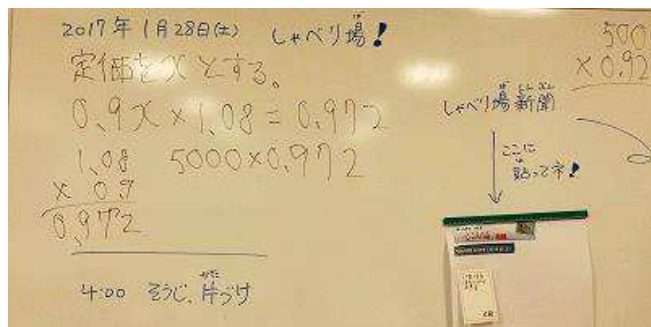


＝ ある日の活動報告より ＝

新しいメンバー（大学生）が来たこともあり、今日の自己紹介はいつもより入念でした（笑）。最近では社会人が多くなり、メンバーは、下は高校生から上は26歳となっています。

知らない者同士が集まっているのだけど、でもいつのまにか自然に打ち解け、やがてお互いの悩みを話し合う。もちろん、一足飛びにはいかないですが、でも確実に「安心できる場所」になっている・・・今日はそんな優しい空気が流れるのを感じました。またミーティングの内容も、どんどん深く・よくなっ

ている！帰りの片付けの「みんなが自主的に動く」様子にも、さすが～って感じてした。



■■ 自主活動 ■■

ピースでは、外出や芸術・趣味的な活動に取り組む当事者の自主活動を応援しています。

具体的には、活動に対し「自ら、何をするか考え、見つけ、広げる」こと、そして見つけた活動の「具体的な活動内容を選ぶ、準備する、実行する、達成感を味わう」ことを、フレキシブルな形・方法で支援します。

平成28年度の活動内容は以下のとおりです。

18: ぱれっと く自主活動 福山豊明さん

ぱれっとでは、毎年恒例になっている『福山豊明さんのさわり織りの展示会』。平成28年度も以下のように開催しました。

■実施日：11月2日～11月5日

■参加者 62名

＝ スタッフより ＝

準備の日にはお友達の皆さんも集合！！テキパキと作業される姿にチームワークのすごさを感じます。

素敵な感性の持ち主であるダウン症の豊明さんの周りは、いつも優しい空気が流れています。体験会も実施され、ピースの別活動の子どもたちもたくさん参加。福山さんが、とっても



丁寧に教えておられる姿はステキでした。子どもたちもみんな、さをり織をすっかり気に入った様子でした。

常に会場からは高らかな笑い声が♪福山さん親子のファンの皆さんが常に会場にいらっしやいました。

今回の作品も個性的で素敵なものばかりでした。また、来年に向かって作品を作る！と頼もしい言葉！次年度も期待しています。

19：ぱれっと〈自主活動 北原徳美さん〉

こちらもしっかり「ぱれっと恒例」となった『なーちゃんのゆめ』、北原徳美さんの『ピースアクセサリーの展示会』です。平成28年度は以下のように開催しました。

■実地日：12月1日～12月3日

■参加者 33名

== スタッフより ==

今年で3回目。ピースジュエリーはもちろん、古代エジプトの神様の絵、小説、編み物、エコバックの制作など、本当に幅広い作品がずら～り！1つずつ徳美さんから丁寧に紹介していただきました。

徳美さんは、とても前向きで、ご家族が大好き！その徳美さんの言葉「ないものは作ればいい」にハッとさせられ、そんな徳美さんを笑顔で見守っていらっしやるお母様に沢山のことを教えていただき、とてもステキな3日間となりました。

ピースジュエリーの体験教室には、びーすの別活動に参加する子どもたちも参加しました♪ジュエリーだけでなく、キーホルダーなども作って、とても喜んでいました。



徳美さんの作品は、ぱれっとにて常時展示・販売も行っています。リクエストに応じて、作品を作ってもらうこともできますよ。ご要望はぱれっとまで！

20：ぱれっと〈自主活動 松浦裕樹さん〉

平成28年度、初めて展示会をされる方が登場しました。

展示会は題して『ゆうきの作品たち』です。

主役は、松浦裕樹さん。趣味の陶芸や書道、さをりの展示会を、以下のように開催しました。

■実地日：平成29年 2月23日～2月24日

■参加者 39名

==活動のようす ==

会場は、松浦裕樹さん親子の多数の作品でいっぱい！これまで、親子で長い間時間をかけて作り上げてきたものなんだなあ・・・と、感じました。

書には、力強さと裕樹さんのまっすぐな性格が溢れていたように思います。さをり織は、明るい色目が多く、焼き物には個性たっぷり♪お母さまの作品も素晴らしかったです。

部屋の片隅には、お茶コーナーを設置され、来場者の方とのおしゃべりをされにぎやかな様子でした。自閉症の当事者ある裕樹さんも自分の作品に囲まれているためか、とても落ち着いておられ、写真撮影にも協力していただきました。



日頃から芸術活動に励むご本人が、ぱれっとを『発表の場』として活用する。年々、その仲間が増えてきました。他事業にはアーティストの卵もいっぱいいます。そこで、新しいチャレンジ！平成29年度はそんな仲間・卵が集まって、みんなで『ぱれっと アートフェスティバル』を開催することになりました。10月開催予定です！ 乞うご期待♪

子ども・本人が、利用・参加するもの ～まとめ

■幼児期■

== 平日 ==

- 1：ぴーすく水曜の親子ひろば>
- 2：あいすてくデイでの個別療育体験><おもちゃ図書館>
- 3：ぴーすの児童デイ<平日の児童発達支援>

== 土曜 ==

- 4：ぱれっとくおもちゃ図書館スペシャル>
- 5：ぴーすの児童デイ<土曜のびころ>

■学齢期■

== 生活力・社会性をアップする ==

- 6：ぴーすの児童デイ<平日のぼんだ>
- 7：ぴーすの児童デイ<平日のぼんた>
- 8：ぴーすの児童デイ<平日のびころ>
- 9：ぱれっとく子どもたちのワークショップ>

■学齢期■

== 趣味・余暇を楽しむ ==

- 10：ぴーすの児童デイ<土曜のぼんだ>
- 11：ぴーすの児童デイ<土曜のぼんた>
- 12：ぷらむくランニングチーム One>
- 13：ぷらむくカラフル>
- 14：ぷらむくいるか>
- 15：ぷらむく鉄道クラブ>
- 16：ぱれっとく鉄道スペシャル>

■18歳以上

- 17：ぱれっとくしゃべり場>

■自主活動

- 18：ぱれっとく自主活動 福山豊明さん>
- 19：ぱれっとく自主活動 北原徳美さん>
- 20：ぱれっとく自主活動 松浦裕樹さん>



■■ 保護者・支援者向けに届けたもの ■■

ぴーすミッションの1つに『保護者のえんばわめんと支援』があります。障がいという言葉に翻弄され、不安や絶望感に苦しむお母さんたち。その心に寄り添い心のケアをしながら、同時に必要な情報を伝えたり、暮らしの中の工夫をいっしょに考えたりしながら、お母さんたちがもともと持っていた『子育てへの夢や希望』を取り戻してもらおう支援です。

その形の1つが、保護者向けのセミナーやグループワークで、ぴーすでは「ぴあ※」で届ける内容を大切にしています。

平成28年度は、以下のような内容をお届けしました。

1：ぱれっと〈小さなセミナー〉

専門家が話す「大きな講演会」ではなく、もっと身近なテーマで、「暮らしに即・つながる勉強」などをするための、少人数のセミナーです。月に2～3回開催、その企画から本番の講師まで、ぴーすの「障がい児母親スタッフ」が担っています。

少人数のセミナーのため、「同じ悩みを持つ参加者どうして、和気あいあいと話しやすいムードがいい」と好評をいただいています。また、支援グッズなどを作りながら、そのノウハウが学べる「製作会」も人気のプログラムとなっています。

平成28年度は、主に以下の四種類を実施しました。

- ・障害特性を知って、合理的配慮を考える～特性理解シリーズ
- ・絵カードなど、支援グッズの製作会
- ・保護者の座談会
- ・子育て力アップを応援する～ほめ力アップ連続講座



〈特性理解シリーズ〉は、例年以上に参加者がありました。例えば、「言葉とコミュニケーション」の回は、言葉を獲得している発達障害児の保護者も、多く参加されました。

〈製作会〉は、定員4名と小規模のセミナーですが、こちらでも定員を超える回があり、特に児童発達支援センターに通うお子さんの保護者の参加が多くありました。

〈ほめ力アップ連続講座〉は、固定メンバーで連続五回の講座でしたので、自然と参加者同士が仲良くなったよう。お互いに連絡を取り合うようになり、その他のセミナーと一緒に申し込むなどで、保護者の交流や勉強の機会につながりました。

座談会は、じっくり話したい方の参加が多く、その後の個別相談につながった方も数名おられました。

■年間実施回数 30回

■年間参加延べ数 159名

(詳細は後頁に、表にして報告します)



= 参加者の感想より =

★「児進路相談会～先輩を迎えて」に参加のお母さん

支援学校と支援学級の親の方がおられて、とても参考になりました。細かい心配事は、入ってから対応していけばいいのかな、と考えることが出来ました。

★「子ども紹介プリント製作会」に参加のお母さん

作り方の手順を教えていただいて、とても参考になりました。子どもの特性を人に伝える勇気もいただきました。

★「不思議な行動Q&A」に参加のお母さん

今まで理解できなかった行動の理由がよくわかりました。特に東田さんの本は、なるほどなと思う事ばかりでした。改めて読んでみたいと思いました。前から不思議だったことの答を知れたような感じで、目からウロコ！でした。

★「言葉の発達とコミュニケーション」に参加のお母さん

支援の意味がやっと理解出来たように思います。「言葉」を「発語」のみにとらわれていたように思います。少しずつでも子どもの楽しみの力添えをしていきたいと思いました。

★「スケジュール製作会」に参加のお母さん

自己流で作ってみたことはあるのですが、使い方がよくわか

っていなかったの、とても勉強になりました。実際に作ってみたり、ポイントを教えてもらったり、便利なグッズも紹介していただけて、今回も大変役に立ちました。子どもと親の両方の支援を考えてお話ししてもらい、親の気持ちも楽になりました。

★「障がい児のいる家族」に参加のお母さん

構造化やクールダウンの場所を用意することで、兄弟間で起きるトラブルを軽減出来ることを知りました。小さい時は、ケンカやいざこざもありましたが、やっぱり世界でたった2人の兄弟、お互いを必要としているのだと感じます。いつまで一緒に暮らせるかわかりませんが、各々が巣立つまで仲良く暮らして欲しいです。

★「活動・方法の構造化」に参加のお母さん

歯磨きなど自立していると思っていましたが、母がしなさいと言わないとできない、指示待ちなのだどハッとしました。できた！楽しい！と思えること、生活が楽しくなるように少しずつ改良してみます。

★「語ろう！思春期の悩み」に参加のお母さん

息子も思春期になり、戸惑うことも多くなりましたが、先輩のお母さん方に色々聞いて良かったです。就労に向けて「心を鍛えるより、心をゆるめる仕方を教えることが大切！」という言葉が心にしみました。

3：あいすてく（あい・ふぁいる活用セミナー）

堺市には、乳幼児期から成人期に至るまでのライフステージに応じてその情報を記録し、次の機関につなぐことにより、一貫した支援を受けることをめざした「あい・ふぁいる」があります。

無料で配布されているものですが、いざ作るとなるとどう書けばいいかわからない・・・。

そんな声にお応えして、ちょっと先輩のお母さんが講師をつとめ、ぴーすならではの「あい・ふぁいる」の活用と制作のワークショップを企画／実施しました。

■年間実施回数 4回

■年間利用延べ数 9名



＝＝ 参加者の感想より ＝＝

・丁寧な説明と今後はどう役立てていけば良いか、活用方法がわかり、これからまめに子どもの様子などを思い出して、記録しようと思いました。とても良い機会になり、大変勉強になりました。

・興味はありつつも、なかなか一人では手を付けられずいたので、とてもわかりやすく説明してもらい、作成へのハードルが下がりました。母子手帳やノート、書類などバラバラに記録があるので、まとめてうまく活用していきたいです。

セミナー中、いろいろなお話も聞けて楽しかったです。

また参加したいです。本当に私にとってのよりどころです。

■■ 保護者セミナー こぼれ話 ■■

ぴーすのセミナーは、講師を『先輩の母たち』が担うことが多いです。これも「ぴーすの特徴」の1つ。先輩・・・といっても、子どもの歳が「かなり上」なのはNo Good。少しだけ先輩であることが大事です。その理由は、親近感と共感性。少しだけ先輩だと、後輩の悩みや苦しさは「つい、この間、自分が悩んでいたこと」で気持ちをわかってあげやすいし、後輩も「少し頑張れば、あんな風になれるかも」という近しさを感じられるから。私を含め「ぴーすを設立した母たち」の子どもは、どんどん大人になっています。

だから、講師役は後輩へ・後輩へと引き継がれています。毎年新しい講師役：母が現れます。

みんな、ぴーすのセミナーで元気もらった人たちで、次は自分が後輩の役に立ちたいと名乗り出してくれるのです。

時代は変わっても、障がい児の母親の不安や苦しさは同じ。

常に、少し先輩の母が、次の母の心の支えになっていきます。(小田)



小さなセミナーの詳細

開催日	形式	テーマ	人数
4/28	座談会	幼児進路相談会～先輩を迎えて	3
5/12	子育て	子育てのコツ連続講座 前期	6
5/19	製作	新学期応援！「子ども紹介プリント」をつくってみよう♪	5
5/26	子育て	子育てのコツ連続講座 前期	5
6/9	子育て	子育てのコツ連続講座 前期	5
6/16	座談会	軽度：進路相談会～先生・先輩を迎えて	6
6/23	子育て	子育てのコツ連続講座 前期	5
6/30	特性	特性理解：不思議な行動 Q&A ～感覚の違いについて知ろう～	12
7/5	製作	情報共有ツール「サポートブック」を作ってみよう 1	4
7/7	子育て	子育てのコツ連続講座 前期	5
9/15	座談会	先輩からコツを学ぼう～先生との付き合い方	3
9/23	特性	特性理解：言葉とコミュニケーション	10
9/29	製作	2学期応援！「子ども紹介プリント」をつくってみよう♪	1
10/6	特性	自発を助ける支援：視覚的ツールを使った自発コミュニケーション	9
10/14	子育て	子育てのコツ連続講座 後期	3
10/20	製作	絵カード 製作会	6
10/28	子育て	子育てのコツ連続講座 後期	3
11/11	子育て	子育てのコツ連続講座 後期	3
11/17	特性	理解を助ける支援：自分で動く～スケジュール・カレンダー等（時間の構造化）	3
11/22	座談会	障がい児のいる家族 ～きょうだい 父 祖父母～	2
11/25	子育て	子育てのコツ連続講座 後期	5
12/6	製作	スケジュール 製作会	4
12/9	子育て	子育てのコツ連続講座 後期	2
12/15	特性	理解を助ける支援：本人も家族も楽になる～我が家の構造化（物理的構造化）	4
1/12	座談会	どうしてる？ 軽度発達障害のある子どもの学習	6
1/19	特性	理解を助ける支援：ひとりのできる～活動・方法の工夫（活動・方法の構造化）	13
1/26	特性	理解を助ける支援：理由・ルールなどの伝え方（ソーシャルストーリー）	6
2/9	座談会	語ろう！思春期の悩み ～先輩をむかえて～	9
2/21	製作	手順書・マニュアル 製作会	3
3/9	製作	情報共有ツール「サポートブック」を作ってみよう 2	5
参加者合計 (利用者 138 職員研修で参加 18)			156

■■ 相談に対応するもの ■■

ぴーすには、たくさんの『入り口』があります。

ぱれっとのセミナーに参加する人、おもちゃ図書館に親子で来る人、ぴーすのパンフレットを見て電話をしてくる人、ホームページから問合せをする人、ぽっしゅにお買い物に来る人などなど、各活動にいろんな形の『ぴーすの入り口』があります。



どの入り口から入っても、各場面で自然に交わされるおしゃべり、何気ない会話ががあります。それに丁寧に対応することは、大切な支援の1つ。

困っていることはないかとアンテナを張って、もし困りごとがあるなら、そのお話をお聞きする。それは、どの入り口でも同様に行われています。

中には、話をお聞きするうちに「これは大変だ!」と気づくことがあります。また、問合せの段階から対応が難しいケースもあります。

どの入り口から入った相談でも、どんな内容の悩みでも、ぴーすとしてきちんと受け止め、出来る限りの対応する・・・、そのために、ぴーすでは「すべての事業・活動で、受けている相談を共有する」仕組みを作っています。

平成 28 年度は「ぴーす内のケースの共有、事業間の連携」がさらに進み、多様なニーズに柔軟な対応ができました。

そのぴーすの相談対応について報告します。

▼ 福祉サービスを利用していないケース ▼

1：ぴーすのあい・すてーしょんによる相談対応

堺市委託事業である〈あい・すてーしょん〉。

平成 28 年度は、7つの法人が受託しましたが、その具体的な内容は、法人それぞれに独自の形態で実施されています。

ぴーすでは「相談対応」を基本とし、来所していただいたの相談、もしくは必要に応じて家庭訪問などを実施しています。

あい・すてーしょんの対象者は、障がいや発達に不安のある児童（0～18 歳）のうち、福祉サービス（障害児通所支援や障害福祉サービス等）を利用しないお子さん。障がいや発達に

不安のあっても、サービス利用をしていないお子さんは、各年齢にたくさんいます。

例えば幼児期は、発達の遅れが発見されてもすぐにサービス利用とはならない場合が多いです。幼稚園などに入園してから、他児との違いが出始め、悩む場合もあります。

学齢期になると「障がいや病気があるけど、放課後デイやヘルパーの必要はない。でも悩みはいろいろあって困っている。」という保護者も多くいます。

そんな「サービス利用をしていないケース」は、あい・すてーしょんで相談対応をしました。

ぴーすのあい・すてーしょんは、平成 26 年度の受託開始から 3 年目。平成 28 年度は地域支援特別事業の実施機関にもなり「あそびの場、保護者交流の場、学習会、親子の居場所、あいふあいる活用セミナー等」を年間 20 回行うこととなりました。

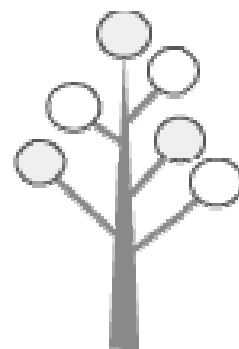
ぴーすとしては、この地域支援は「障がいに気づいたばかりの保護者」に対応する『親子ひろば』が良いと思いましたが、堺市の設定回数では定期開催することはできず・・・。そこで（前述のとおり）法人内で自己工夫をして『毎週水曜日の親子ひろば（おもちゃ図書館）』を定期開催することとしました。

このひろばには〈相談対応可能なスタッフ〉を常駐させ、常にタイムリーに相談対応できる状態にしました。これにより、平成 28 年度は小さいお子さんの相談に数多く対応することとなりました。

相談内容は、障がい受容に悩むお母さんの心のケア、福祉サービス利用に至るまでのサポート、関係機関の紹介や連携、ぱれっとが主催する保護者向けセミナー等の案内、ぽっしゅの支援グッズなども利用した具体的な支援の紹介などです。いずれも、保護者のエンパワメントが高まる支援をしました。

■年間来所相談延べ数：271 件

■年間訪問相談延べ数：9 件



▼ 福祉サービスを利用しているケース ▼

1：地域活動支援センターばれっとによる相談対応

相談をする人にとって、サービス利用うんぬん・・は関係のない話である！ということで、サービスを利用している子の相談は、ばれっとの『予約来所相談』で対応をしました。

特に、最初はあい・すてーしょんで「びーすに話を聞いてもらった」という保護者にとって、その後のサービス利用を開始してからも、同じ「びーすのスタッフ」に話を聞いてもらえるのは安心のようでした。

また、びーす内には様々な入り口には、「すでにサービスを利用している」「相談支援事業所と契約している」「役所の関係機関にも相談中」という方もいらっしゃいます。

すでにいろんな所に相談していても「でも悩みが解決しない」というニーズに対応すべく、びーす内に入る相談の「サービスを利用している場合」は、ばれっとが受け皿となり、その都度、予約来所での相談を実施しました。

■年間相談数：203件

2：びーすのあい・すてーしょん

による『施設支援指導』での相談対応

びーすに相談されるのは、保護者だけではありません。学校・保育所やサービス事業所からも、いろんな相談が入ります。

その相談に対応できるのが、あい・すてーしょんの『施設支援指導』です。この形の相談対応は、ケースワークが困難な場合が多く、障がい児のことだけでなく家庭状況など複合的な問題がある場合や、二次障害が強い等でより専門的な支援が必要であるということが多いです。

そこで、びーすとしては以下のような内容で対応しました。

- ・保護者、家庭状況を含めたアセスメントのヘルプ
- ・本人に関わる担当者を集めたケースカンファの開催や参加
- ・詳しい専門家を探し、レクチャーを受けられるよう準備
- ・相談者とともに保護者とお会いし、互いのコミュニケーションがうまく運ぶよう支援



平成28年度は、関係機関との連携がとても多い一年でした。依頼先の学校・保育所等と当該児童の利用サービスの事業所をつないだり、子ども相談所・家庭児童相談室・保健センターといった行政機関との連携を進めたり、ある時は病院とも連携をしました。複合的な問題の解決には、さまざまな機関の力が合わさることの重要性をつくづく感じました。

■年間相談対応数 51件

▼ びーすとサービス利用の契約をしているケース ▼

4：びーすの支援プランセンター（略して、びーセン）

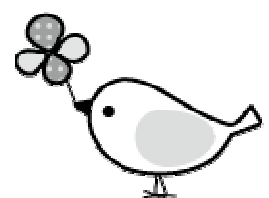
による 指定相談支援（障害児相談、特定計画相談）

指定相談支援とは

- ・障害のある方やそのお子さんの希望する暮らしを実現させるべく、アセスメントを行い、必要な障害福祉サービスの利用を考え、サービスを利用する計画案を作成する。
 - ・計画案作成後は、本人・家族に合う事業所を探すなどの事業所調整をする。
 - ・サービスの利用状況を確認するために訪問をして、モニタリングを実施する。
 - ・複数の事業所等が統一した支援を受けられるようサービス担当者会議を開催する
- などを行い、ご本人、ご家族のニーズにあった暮らしができるようサポートするものです。

指定相談支援は、利用者との契約で実施され、その利用者がサービス利用を継続される間、ずっとその生活を見守り支援するという、息の長いものです。

びーすの支援プランセンター（略して、びーセン）が大切にしているのは、相談支援の「中立的な立場」「常に、当事者に寄り添って、当事者の目線で」を守ることです。なので、利用者の中には、同じびーす内の事業所を利用している人もいて、その悩みに応じているうちに、法人内事業所と相反することもあります。が、びーセンは常に利用者立場で、その気持ちに寄り添い支援・対応するよう心がけています。



指定相談支援は平成 24 年度に開始され、今年で 5 年。当初から事業を行ったピーセンは、最初の 1・2 年で一気に利用者が増えたため、一時期「全ての依頼を受ける事ができない」状況になりました。

それを改善すべく、相談支援専門員を補助する相談員を増員するなどして、新規依頼を少しずつ対応できるよう工夫を行ってきました。それに追加し、平成 28 年度は、相談支援専門員の常勤職員を加え、特定事業所※となりました。

※一定の基準を整え、質の高いケアマネジメントの実施体制を整えている事業所のこと

この一年間を振り返ると、相談傾向としては「学校や幼稚園との連携が取りづらい・対応方法の共通理解が得られない」といった相談内容が多かったです。そこで、上記のとおり「中立的な立場」として、学校を含むご本人に関わる機関に声をかけ『サービス担当者会議（情報共有・支援の方向性を確認するもの）』を開催し、利用者の気持ちに寄り添えるよう、支援・対応を行いました。

一方、お子さんの成長に伴い、様々な問題行動が出るなどで、家庭内でどう対応したらよいかの相談、特に思春期の子どもに対する悩みの相談が多くありました。これについても、保護者の気持ちに寄り添いつつ、かつ、成長しているお子さんの気持ちも大切にしながら、利用できる社会資源の紹介のほか、地域活動支援センターぱれっとはじめピーす内の各種相談体制とも連携しながら、家庭でできる事を一緒に考えるという対応を行いました。

まだ最近のピーセンは、利用児の年齢が 18 歳を超え、障害児相談から特定計画相談へ替わるケースも増えつつあります。成人のサービス等との連携も増えたと実感しています。

平成 28 年度の相談対応は以下のとおりです。

- 年間相談件数 2746 件
- 契約実人数 148 名（内、新規 6 名）
- 障害児相談 計画案作成件数…163 件
モニタリング件数…489 件
- 特定計画相談 計画案作成件数…40 件
モニタリング件数…116 件



5：ピーすの児童デイによる 利用者への相談対応

ぱんだ・ほんた・びころの 3 事業所においても、相談対応を大切にしています。支援計画説明などの面談時はもちろんのこと、毎月利用者へ配布しているニュースで「いつでも相談可能」をお知らせし、ご要望に応じ、事業所内相談や家庭訪問相談を実施しました。

日頃の様子を見ているスタッフだからこそその『相談対応』は、保護者の「日常生活として、困っていること」や「どこに相談すればよいかわからないこと」などを聞き取ることができます。デイ事業所で返答できることはお伝えしながら、デイ事業所では解決が難しいこと・わからないことは、ピーす内の他事業所につなぎ、連携して解決にあたりました。

平成 28 年度の相談対応は以下のとおりです。

■年間相談件数 274 件

堺市の相談支援体制が再編されたのは平成 24 年度。それまでのピーすは「堺市委託」で相談支援を行い、相談内容に関わらず、手帳や受給者証の有無も関係なく、どんな相談でも柔軟に対応できていました。その頃の相談数は、利用者数 490 名、年間件数 1,812 件でした。体制の再編で、ピーすは一時「指定事業での相談支援」のみ、サービス利用の相談がメインになってしまい、実は・・・とても気持ち悪さを感じていました。やはり私たちは、どんな子・どんな内容でも、ちゃんと相談対応したい！そんな思いから、毎年いろんな創意工夫を重ねてつづけた結果、平成 28 年度は、全事業あわせて 350 名・3,500 件を超える相談に対応できるようになりました。しかしこの形は、ピーすならではの工夫をしているからであって、不安定なものです。今後は安定した対応ができる「仕組みづくり」が課題です。

ピーす全体の 相談対応 の件数

担当事業	相談件数	相談実人数
あい・すてーしょん	280 件	67 名
ぱれっと：来所相談	203 件	50 名
あいすて：施設支援	51 件	17 箇所
ピーセン：相談支援	2,746 件	148 名
デイの 3 事業所	274 件	93 名
合計	3,552 件	358 名/17 箇所

■■ 主に、来所する方への 情報提供 ■■

1：生活支援グッズの店 ぽっしえ

ぽっしえは、来店する方の悩みに寄り添い、暮らしベースの具体的な支援と一緒に考えるお店。ぴーすの大切な『相談窓口』の1つであり、利用者には敷居の低い入口であり、居心地のよい気楽な場所になっています。

店舗を構えての運営開始5年目となる平成28年度は「居心地の良さを、もっともっと知ってもらう・感じてもらう」を活動のメインテーマにしました。

ぽっしえに来られる皆さんが一番喜ばれるのは、実際のグッズ活用についての話。障がいのある子どもの暮らしが楽になる、家族も楽になる、そんな経験をしている「障がい児母親や支援者の体験談」です！

そこで平成28年度は、ぽっしえに定期に集うユーザーボランティアを募集し、おしゃべり会のような集まりをすることになりました。現在は、4名のボランティアが週に一度を目安に集まり、店舗整理やポップの作成をしながら、来店する利用者とおしゃべりをするようになっています。次年度以降も、さらにぽっしえで活躍していただけるボランティアを増員し、幅広い体験談が話せる場にしていきたいと思っています。

ネットショップでの販売 <http://ps-poche.shop-pro.jp/>

ぴーすでは「広く支援グッズを知ってもらう・いつでも便利に購入できるシステム作り」を課題として、インターネットショップを平成27年4月1日より開始しています。

今年度も引き続きたくさんの方にご利用いただき、全国津々浦々から閲覧していただけるようになりました。

「実店舗がある、店長の顔が分かるから安心」という声や、ネット注文後に「実際に行って、お話したかった。」と来店されるケースもありました。

平成28年度の利用数等は、以下のとおりです。

■年間利用延べ 916人（ネットショップ利用者含む）

■年間販売件数 2353件

<事例紹介>

●イヤーマフのお試し

軽度の知的障がいと身体障がいのある成人女性が、「装着のしやすいタイプではなく、携帯しや



すいタイプの『折りたたみ式イヤーマフ』がほしい」と来店。自分で装着可能かどうか試したいとのこと。

スタッフが取扱いの説明をしたのち、ご自身でトライ。手の不自由があるので、最初はうまく装着することはできませんでしたが、根気よく持ち方を工夫され、おしゃべりをしながらも1時間後には自分で装着可能に！

即購入を希望されましたが、「今は予算がないので、作業所のお給料を貯めて、買いに来ます！」とのこと（笑顔で!）。そのひと月後、再来店され購入に至りました。

スタッフ一同、とてもシアワセな気分になりました。

●学校コワイ

文/よつば もこ、
絵/かした あゆみ
出版/ASDヴィレッジ



支援者かな?という感じの方が、書籍『学校コワイ』を7冊も購入されました。スタッフが不思議に思い用途をお伺いすると、親の会のリーダーさんで、後輩母のために購入しに来たことが分かりました。

そこでスタッフは、自分も同じ『障害児の母』であると自己紹介。「息子は18歳の知的障がいで・・・」という、その方も「うちの息子も18歳です」とニコリ。その後、お互いの子どもの話で大いに盛り上がりました。

「今は後輩の為の活動がメイン。自分の話を分かり合える立場の人と久しぶりにできたのは、とても楽しかった」とうれしいコメントを残して帰られました。とてもぽっしえらしいエピソードで、スタッフでシアワセ気分を共有しました♪

<情報提供：順不同>

- ・発達障害3きょうだいを育てる「楽々かあさん」作成の『凸凹変換表&声掛け変換表』
- ・チェーンブランケット
- ・AURAL SONIC 株式会社（静かなボードちゃん）
- ・兵庫県立福祉のまちづくり研究所（知的障害者 暮らしのアイデアブック）
- ・e=AT 利用促進協会（障害のある子どもたちのための携帯情報端末を利用した学習支援マニュアル）
- ・株式会社おめめどう（トータルセミナー等各種セミナー／各種資料・有料ネットサービス）など

<ぼっしえ出張販売>

来店が難しい方にも、いろいろな支援グッズを「見て・触って・知って」もらえるように、『出張販売』をしています。

平成 28 年度の出店は、以下のとおりです。

- ・4/2「まぜこぜ大阪」に出店
- ・6/27「堺市手をつなぐ育成会 講演会」に出店
- ・8/28「なんとカンファレンス」に出店
- ・12/18「発達障害児のくらし市」に出店

発達障がい児の支援に特化した『発達障害児のくらし市』に出店をしました。家族の数が多かったためか、家庭でできる支援に関する書籍や感覚グッズなど穏やかな暮らしを支えるグッズのニーズが高かったです。

2：ぱれっと<展示・啓発掲示板コーナー>

ぱれっと待合ホールには『掲示板』があり、シーズンごとにテーマを変えて「障がいに関する掲示」をしています。

待合ホールは、ぱれっと利用者だけでなく、ぴーす各事業の利用者、法人へのお客様など、いろいろな人がやってきます。来所された方にご覧いただき啓発につなげるのが目的です。

同時に、お持ち帰り用の資料も用意しています。最近は、放課後等デイサービスや成人の通所サービス事業所のパンフレットが充実していて（事業所さんが配架用に持ってこられます）、パンフレットを持ち帰った方が後日事業所に連絡をして、利用につながった・・というエピソードもありました。

平成 28 年度の掲示内容は、以下のとおりです。

月	内容
4月	世界自閉症啓発デー
6月	夏のおでかけ情報
8月	発達障害の子育てに役立つ「凸凹変換表」
10月	発達障害の子育てに役立つ「声掛け変換表」
12月	クリスマスのしつらえ
2月	ぱれっと紹介パネル

== 担当者より ==

堺市障害者支援課主催で、堺市や地域で暮らす方に向けて地域活動支援センターがどんなことをしている場所なのか、誰がいつ利用できるのかなどを紹介する「地域活動支援センター 紹介パネル展」が堺市役所で行われています。今年で 4 回目です。ぱれっとも畳一畳台のパネルを展示しました。

市民の方に「色々な活動があるんですね」と興味を持って見て

いただくことが出来ました。

紹介展終了後、ぱれっとの活動が一目で分かるようになっていたので、ぱれっと・ぴーす共用玄関ホールのベンチコーナーに常設しておくことにしました。

デイ等の事業利用者の方が面談等でお越しの際にも、観ていただけるようになり、ぱれっとの活動PRが効果的にできるようになりました。



3：ぱれっと<図書/資料（閲覧貸出）情報コーナー>

ぱれっとには、障がいに関する書籍を誰でも自由に閲覧、借りることができるコーナーがあります。

発達障がいや知的障がいについて学ぶ書籍を中心に、専門的なものからマンガまで各種取り揃えています。

他にも、関係団体の会報誌や雑誌、行政などで作成された障害に関する啓発物などもご自由にご覧いただけます。

平成 28 年度に人気だったのは「発達障害のある子と家族のためのサポートBOOK 幼児編」でした。家族だけではなく支援者にとっても障害特性と見合った支援が分かりやすく整理されているので、ぱれっと職員もおススメしやすかった書籍でした。



■■ 主に、インターネットなどでの 情報提供 ■■

障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。

具体的には、以下の3つの方法で行っています。

4：メールニュース<ふぁにい>

火曜～土曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを配信。生活に密着した情報をタイムリーに届けられる「欲しい情報が欲しい時に手に入る」ニュースです。

平成28年度は、「原稿作成」をする人の幅を広げ、内容の充実をめざす目標で活動しました。

具体的には、利用者である保護者から『原稿作成ボランティア』を募集。そのボランティアが集まり、定期的に会議を開催して、アイデアを出し合いました。

そのアイデアの中から、すぐにできる改善として、ニュースは「ライターの語りかけ」を前段に入れることになりました。その工夫は、利用者から「親しみがあっていい」「読むのが楽しい」との感想を頂いています。

内容改善のアイデアは次々わいていきます！その他の改善は、次年度に、実現したいと思っています。

■年間配信数 381 件（月平均配信数 32 件）

== 記事内容（抜粋） ==

<福祉、教育、行政、制度>

障害者差別解消法スタート、通級指導高校平成30年導入

特別支援コーディネーターを専任化

<民間の社会資源>

JR西日本あいウィル見学会、ATC遊び、マーレアトリエインカブジュニア

<お得情報>

障害者手帳でいこう

<余暇：おでかけ・エンタメ・文化活動・イベント情報>

アゴラスケートリンク、大阪城ウォーターパーク

<セミナー/講習会/学習会>

これからの発達凸凹支援、感覚統合イベント

愛着に課題のある子どもの理解と支援

<書籍/番組/モノ等の紹介>

書籍：はじめての小学校生活、電子ビジュアル辞典

ディスクレシア情報提供サイト

<ぴーすからのお知らせ>

あい・ふぁいる活用セミナーお知らせ、ぽっしゅ商品情報

小さなセミナーなど企画もの情報

== 担当者より ==

最近よく、デイ事業所から「事業所の紹介」の配信依頼を受ける事があります。依頼を受ける際にヒアリングすると、事業所支援者自身も実は『ふぁにい』で配信されているような情報を必要とされていることがわかりました。来年度は、保護者の方だけではなく、事業所等の支援者にも『ふぁにい』のPRをしていきたいと思っています。

メールニュース ふぁにいの詳細	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配信合計本数	23	27	35	34	32	40	27	38	30	32	30	33	381
福祉行政制度	1	1	0	2	1	4	0	4	0	1	1	3	18
民間の社会資源、療育	0	3	4	1	1	2	1	0	4	4	2	3	25
お得情報/障害割引情報	0	0	0	1	0	1	1	2	1	1	0	0	7
余暇 お出かけ情報	4	0	2	3	4	1	1	1	1	3	1	4	25
余暇 文化活動、教室	1	1	1	5	2	9	2	3	1	1	0	2	28
余暇 イベント	4	0	2	2	2	1	4	4	3	4	6	6	38
セミナー/講演会/学習会	5	7	9	6	9	10	5	9	7	10	11	6	94
書籍/番組/モノ等の紹介	4	9	8	8	2	2	7	5	5	1	4	6	61
ぴーすからのお知らせ	4	6	9	6	11	10	6	10	8	7	5	3	85

5：ぴーすのホームページ <http://p-s-sakai.net/>

ぴーすへ電話をくださった方にその経緯をお訪ねすると、「ネット検索でHPを見つけ、電話しました。」との答えを頂くことがたびたびあります。HPは『ぴーすとの出会い』、最初の情報提供の場として、重要な媒体です。



しかしながら、毎年の「事業内容変更等」に更新が追いついておらず、不正確さと不十分さがあり課題を抱えています。

これはブログ等にも同様の問題があります。ブログは、本来なら「ぴーす内の動きをタイムリーにアップする」ものなのですが、それが遅れがちです。またアップ数の多い活動・少ない事業など、ぴーす全体として内容のバランスもとれていないことも課題です。これら利用者に不利益をもたらしている課題を、次年度に解決を図りたいと思います。

6：ぴーすのブログ <http://sakai-comcom.net/p-s/>

ブログで「ぴーす事業・活動の様子」などを紹介。平成28年度はを下記のように配信しました。

■年間アップ数 122本



8：ぽっしえのブログ <http://ameblo.jp/pspoche/>

支援グッズをわかりやすく紹介するブログ、開始し2年がたちました。ぽっしえにはたくさんの「支援グッズ」が集まっています。その情報を、単なる商品紹介ではなく、ぴーすならではの「わかりやすさ」で伝えています。

■年間アップ数 7本



▼ぽっしえのフェイスブックページ



平成28年度、「ぽっしえのフェイスブックページ」を作成しました。支援グッズを通じての「個人や他団体とのつながり」を深めることを目的としての開始です。ぽっしえらしい情報発信・収集・近況報告に活用いたしました。また、ぽっしえで取り扱わない支援グッズや支援技術情報、出張販売の様子などもアップしました。フェイスブックを通じて、出店、展示依頼もあり、タイムリーなコミュニケーションが図れたと思います。

■年間アップ数 24本



7：ぴーすのフェイスブックページ

平成28年度は、「ぴーすのフェイスブックページ」を作成しました。目的は、個人や他団体とのつながりを深めること。同時に、ぴーすらしい情報発信・収集・近況報告を行うために活用を開始しました。

■年間アップ数 10本



ぴーすの活動の中で、大切なものの1つが「啓発」です。障がいのある子どもたちの『今、そして将来』をともに生きてくださる皆さんに、子どもたちの魅力・ともに生きる幸せを伝えるべく、講演などへの講師派遣を行っています。

また、支援者&当事者の両方の顔をもつ立場を生かして、さまざまな機関との連携、会議への参加も行っていきます。

■■ 講演などへ、講師を派遣したもの ■■

ぴーすって「母親だから」の当事者性・共感性が豊かであり、また「母親だけど」常に新しい知識を学び、必要な専門知識と支援力で具体的に支援を実行している集団です。この「母親だから」と「母親だけど」の両方があることが、ぴーすの魅力だと思っています。そしてそれを元に、自分たちの暮らしを伝える・表現することは、ぴーすの大切な活動と位置付けています。

法人設立以来、毎年各地よりさまざまな依頼を受け、講師派遣を行ってきました。が、常に課題となっていたのは、講師を担うのが理事長（小田）と副理事長（山本明美）の2名に限定されていること。

そこで、平成28年度は講師を担う人材を育成することを目標としました。まず講師候補を選び、小さなセミナー参加者やぴーすリーダー養成事業の受講者の中から2名を講師候補に決定。毎月のように打合せや練習などを行い、秋に本番デビューをはたしました。

講演の依頼内容は、以前は障がい者団体などの依頼で「障がいの母親向け」にお話するものが多かったのですが、平成28年度より施行された「障害者差別解消法」の影響や障がい児サービスの広がりなどの社会情勢より、支援者や市民（子ども）向けの依頼が増えてきました。この啓発ムードは、ますます高まると思われます。

堺市においては、あいすてーしょんの施設支援を利用での「学校やデイ事業所からの研修依頼」が目立つ1年となりました。

ぴーすとしては、平成28年7月に起きた津久井やまゆり園の痛ましい事件が大きな「心への影響」となりました。ぴーすだから語ることができる「障がい児と生きる幸せ」。これを大切に『講師派遣活動』にしなければと強く意識して、講演活動を実施しました。



平成28年度の実施内容は以下のとおりです。

▼母親として『体験談』を届けたもの

派遣日	主催 及び 〈催事名〉	対象	「講演テーマ」 及び 講師名
9月 5・7・8日	めだか親子教室 〈保護者学習会〉	保護者	「先輩保護者による子育ての体験談から」 講師名：山本明、田中、高木、西川、富山、岡本
2月14日	堺市難病支援センター 〈小児慢性特定疾病患者（児）家族学習交流会〉	保護者	「子どもの成長とともに、親が成長するには」 講師名：山本明、佐野

▼障がいの理解、支援のコツなどについて

派遣日	主催 及び 〈催事名〉	対象	「講演テーマ」 及び 講師名
5月14日	大阪樟蔭女子大学 児童学部児童学科 〈ゼミ生の視察及び研修〉	大学生	「ICF と支援グッズ」 講師名：山本明
6月14日	サークル：たからもの 〈障がい児母の勉強会〉	保護者	「発達障がい児子育て公開相談会」 講師名：山本明：
10月21日	堺市立金岡南小学校 〈6年生啓発授業〉	小学生	「障がいについて考えよう～みんなちがって、みんないい」 講師名：小田、田中、福島

▼障がい児の保護者（母親）を支援することについて

派遣日	主催 及び 〈催事名〉	対象	「講演テーマ」 及び 講師名
2月15日	堺市初等教育研究会 特別支援教育部会 〈教育研究講演会〉	支援者	「障害のある児童生徒をもつ保護者理解について」 講師名：小田
3月7・10日	堺市 子ども家庭課 〈あい・ふぁいるサポーター養成研修〉	支援者	「あい・ふぁいると保護者支援」 講師名：小田・福島

▼障がい児の福祉制度について

派遣日	主催 及び 〈催事名〉	対象	「講演テーマ」 及び 講師名
6月22日	大阪府立堺支援学校 〈教職員対象研修会〉	支援者	「相談支援：福祉と教育の連携について」講師名：出来
8月17日	堺市初等教育研究会 特別支援教育部会 〈教職員対象研修会〉	支援者	「放課後等デイサービスについて」 講師名：小田

▼障がい児の相談支援や、相談対応について

派遣日	主催 及び 〈催事名〉	対象	「講演テーマ」 及び 講師名
11月18日	堺市障害者相談支援専門員協会 〈支援専門員研修会〉	支援者	「障害児相談支援事業と教育機関の連携について」 講師名：小田

▼あいふぁいる 活用セミナー

派遣日	主催 及び 〈催事名〉	対象	「講演テーマ」 及び 講師名
6月3日	堺市 子ども家庭課 〈あい・ふぁいる・サポーター養成研修〉	支援者	「あい・ふぁいる活用の実際」講師名：小田、辻、福島
3月28日	堺市 子ども家庭課 〈あい・ふぁいるの活用推進〉	支援者	「あい・ふぁいる活用セミナー～つながろう、つなげよう～」講師名：小田、福島

▼支援グッズなどについて

派遣日	主催 及び 〈催事名〉	対象	「講演テーマ」 及び 講師名
8月28日	なんとカンファレンス 〈第5回なんとカンファレンスゴールデン〉	市民	「障害のある人と最新のICT 支援技術他」 講師名：山本明

▼障害者（児）の防災について

派遣日	主催 及び 〈催事名〉	対象	「講演テーマ」 及び 講師名
12月4日	第1・第2もず園 〈日曜参観・保護者学習会〉	保護者	「障がい児の防災について」講師名：小田、山本明、辻
2月2日	輪母ネットワーク・生野区社会福祉協議会 〈生野区障がい児・者の防災ネットワークをつくるために〉	支援者	「障がい児者の災害時の支援を考える～支援者がつながる・広げる～」講師名：小田
2月24日	堺市社会福祉協議会 東区事務所 〈東区ボランティア気づきの市民講座〉	市民	「守る・そなえる・防災講座 みんなで取り組むボランティア！」講師名：小田

■ 他機関・団体との協働、協力をしたもの ■

ぴーすは、幅広く、さまざまな方たちとおつきあいをしています。
その「おつきあい」の中で、協働・協力を依頼されることも多く、施設の視察に来られる方もいます。

平成 28 年度に実施したものは以下の通りです。



▼外部へ、出展などの協力をしたもの

派遣日	主催者 及び 出展場所	対象	出展などのテーマ
4月2日	MAZEKOZE OSAKA 実行委員会 梅田東コミュニティ会館	一般市民	いっしょに大阪をブルーに染めよ！
7月23日	堺支援学校 堺支援学校グラウンド	一般市民 ほか	障がいのある子どもが楽しめるゲームの支援協力
8月26日	奈良県特別支援教育研究会 奈良県明日香養護学校	支援者	教材、支援グッズの展示
10月16日	百舌鳥梅町3丁目自治会 百舌鳥梅町3丁目集会所	地域住民	第22回文化祭 土曜ぱんだの書道作品出展
1月17日	つぼみ園保護者会 第1・2つぼみ園	保護者	主催コンサート（演目手配のサポート）
12月3日～ 12月9日	地域活動支援センター交流会 堺市役所本館ロビー	一般市民	地域活動支援センター紹介 パネル展示会

▼ぴーす内の施設・事業の視察

派遣日	依頼者	対象	視察内容
6月30日	NPO 法人門真市手をつなぐ育成会	保護者	生活支援グッズのお店ぼっしゅ
7月12日	堺市北保健センター	行政	ぴーすの児童デイびころ
7月21日	さくらくらぶ鳳	支援者	ぴーすの児童デイぱんだ
10月26日	放課後等デイサービスぼっ歩	支援者	地域活動支援センターぱれっと
2月16日	就労移行支援施設ハンズ堺	支援者	地域活動支援センターぱれっと

▼ヒアリングに協力したもの

派遣日	依頼者	対象	講演テーマ
9月30日	京都教育大学	大学院生	「学校と保護者のパートナーシップの形成要因」 アンケート協力のためのヒアリング
11月25日	大阪手をつなぐ育成会	支援者	「学齢期保護者対象意識調査アンケート」の協力

▼その他

「キッズサポートセンターさかい※」へのアドバイザー業務を、ポーンランドより委託されて実施しました。



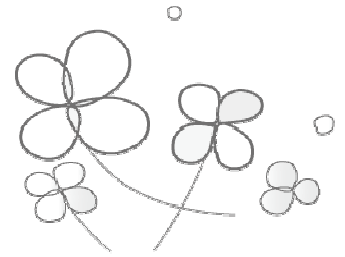
実施日：4月25日、5月31日、6月30日、8月5日、8月31日、9月9日、
9月23日、10月6日、10月21日、1月26日、2月28日、3月15日
※堺市が、高島屋、ポーンランドとコラボレーションして「子どもと保護者の
「遊びを出発点に気軽に集い・交流し・相談できる場をつくり、子育てにかかる不安感・負担感を軽減することをめざして取り組んでいる子育て支援施設

■■ 会議や集まりの一員として参加したもの ■■

びーすは、それぞれのスタッフや事業所がさまざまな立場で、団体の役職・協議会の委員をつとめたり、ネットワークなどへ参加したりしています。

平成 28 年度は以下の通りです。

- ・ 特定非営利活動法人 堺障害者団体連合会
- ・ 堺心身障害者（児）を守る連絡会
- ・ 堺市手をつなぐ育成会
- ・ こだまぼっこの会
- ・ 社会福祉法人 大阪手をつなぐ育成会
- ・ 社会福祉法人 堺市社会福祉事業団
- ・ 特定非営利活動法人 堺市相談支援ネット
- ・ 堺市 障害者施策推進協議会
- ・ 堺市 障害児支援専門部会
- ・ 堺市 発達障害者支援専門部会
- ・ 堺市 権利擁護部会
- ・ 堺市 第3次地域福祉計画 懇話会
- ・ 堺市社会福祉協議会 第5次地域福祉総合推進計画 懇話会
- ・ 堺市 障害者スポーツ・レクリエーション大会 実行委員会
- ・ 地域活動支援センター 情報交換会
- ・ さかい障がい児放課後連絡会
- ・ 堺市障害児相談支援事業所交流会
- ・ 堺市児童発達支援にかかる交流会
- ・ 堺市障害者相談支援専門員協会

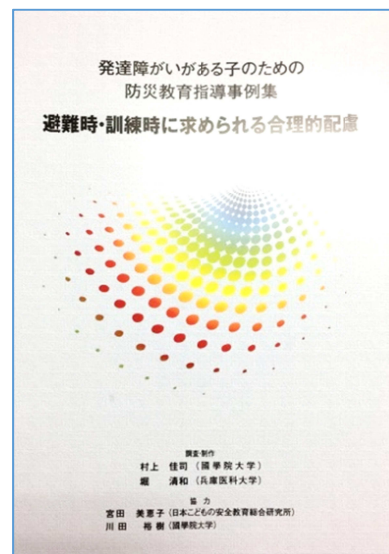


★メディア取材など

〈全国手をつなぐ育成会〉『手をつなぐ』8月号
 〈朝日新聞〉『9月21日 夕刊』
 笑顔 223 枚心もつなぐ
 ～障害者と家族、会報誌に写真と実名メッセージ～



〈國學院大學・兵庫医科大学〉12月13日発行
 冊子『発達障がいがある子のための防災教育指導事例集
 ～避難時・訓練時に求められる合理的配慮～』
 防災ワークショップの記事が掲載。



その他

平成28年度の活動報告書。ここまでは「対象(ターゲット)」や「テーマ」に分けて、報告をしてきました。

最後に『その他』として「NPO 法人として」「各事業所として」の報告と、「人材育成として」の職員が受講した研修を、まとめて記載いたします。

■■ NPO 法人として ■■

<平成28年度 総会及び理事会>

- ・総会は、1回開催をしました。

5月20日(金) 10:00~12:00

出席者11名(内委任状出席者2名)

- ・理事会は、計7回 開催しました。

5/18、5/31、6/29、7/29、10/4、12/6、3/1

<正会員の拡大>

平成28年6月に、広く正会員の募集を行いましたところ、新規で11名の方が入会されました。

これまでは正会員が一堂に会する機会が総会のみでしたので、平成28年度からは『秋の正会員交流会』を実施することになり、11月に開催しました。設立当初の懐かしい話から、最近の子育て四方山話まで大いに盛り上がりました。

<ふぁにいメイトへの転換>

設立当初のぴーすは、その当時の社会情勢として障がい児が利用できるサービスが乏しかったため、ぴーすの活動(サービス以外)を利用する「利用会員」という枠を設け、活動に参加していただいていた。

しかし、社会全体に障がい児サービスが広がりはじめ、特にぴーす内の福祉事業が充実していくにつれ「利用会員でなくても利用できるサービス」がぴーす内に増えました。その変化を受け、平成27年度は「利用会員」を「プレミアム会員」と名称変更。プレミアム会員に『メールニュースふぁにい』の配信を行ってきました。

しかしこれがベストな形とは思えなかった運営スタッフは、その後も「利用会員とはなにか?福祉事業の利用者との違いは?」と、常に話し合いを重ねました。

その結果、平成28年度は「プレミアム会員」を廃止。新たに、ふぁにいの購読者を「ふぁにいメイト」と呼ぶことにしました。これにより「ふぁにいメイト」は、ぴーすのコミュニティビジネス事業の利用者という位置づけに変更されました。

<ボランティア受入の仕組みを再構築>

ぴーすは設立前から、数多くのボランティアを受入してきました。特に、障がい児母親であるボランティアスタッフは、ぴーすの市民活動にとって「なくてはならない存在」です。

しかし、年々事業・活動が広がっていったぴーすは、いつしか「いろんなことをしているようだけど、具体的には何をしているの?よくわからない」という声が多くなり、ぴーすでボランティアしたいという人はいるけど、その人たちが実際の活動につながらない・・・という問題が現れました。

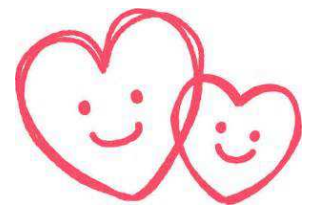
そこで平成28年度は、ボランティアが活躍できる活動内容やルールの可視化を行い、双方にとって分かりやすい仕組みづくりを構築しました。結果、年度末には21名のアクティブなボランティアの登録につながりました。

<法人の事業報告書を、事業利用者に配布>

毎年、総会が終了すると、承認された『法人の活動報告書』を関係者に配布・郵送をしています。これまでは、その届け先が「正会員・ふぁにいメイト(旧利用会員)・取引先」という『市民活動関係』に限られていました。

しかし、現在は「ぴーすの福祉事業の利用者」がかなり増加したことから「福祉事業利用者にも、ぴーす全体のことを知ってもらおう」ということになり、平成28年度は、ぴーすの児童デイばんだ・ぼんだ・ぴころ・ぴーすの支援プランセンターの利用者に配布をすることとなりました。

これにより、ぴーすの市民活動について事業利用者にも知ってもらえる機会になり、事業連携を強めることにつながりました。



<ぴーすアンケートを実施>

NPOマーケティング個別サポート研修(堺市市民協働課)に理事長/副理事長が参加。そこで学んだことで「改革には、法人内の現状把握が必須である」を元に、利用者へのアンケート調査を実施しました。

- ・福祉事業利用者 方法: アンケート用紙配布
188名(109名回答)
- ・市民活動利用者 方法: Web ページ活用
152名(22名回答)

その他

アンケート回答からわかったことは「ぴーすの活動、全体を理解している人は少なく、利用する内容が限られている」「福祉事業の利用者の市民活動事業の利用が少ない」「情報や相談対応を必要としている人が、とても多い」ということでした。課題として、見えてきたことが

1. PRの問題

効果的なPRができていない。興味のある人が多いが、その人たちに上手くぴーすのことを伝えられていない。わかりやすく活動内容を伝えるツールがない。

2. メールニュースふぁにいの問題

「ふぁにい」配信の仕組み（形）は、開始した平成15年から変わっておらず、現在の生活スタイルに合っていない。

3. 人材不足

PR等の仕組み改善、ふぁにいの改革などを実行する人材が不足している。

以上の課題、運営スタッフは以前から感じていたことでしたが、アンケート調査の結果を見て、確信に変わりました。改めて、年度当初より取り組んだ「ボランティア受入仕組みの再構築」による人材確保と育成が重要であり、今後も継続的に進めていく必要があります。

また、次年度には、1の課題解決に向けて「ぴーすの活動を分かりやすく伝えるツール＝ぴーすパンフレット※」の作成、2についても、システムの再構築を行う予定です。

※作成にプロの力を借りるため、認定NPO法人サービスグラントの助成申請中)

■■ 各事業（部門）より ■■

<ぴーすの児童デイ：自己評価を実施>

厚生労働省の『放課後等デイサービスガイドライン（※1）』では、放課後等デイサービスの事業所で【自己評価】を活用することが想定されています。

そこで、ぴーすでは、平成28年11月より『自己評価を作成する取組み』を開始。まずは、保護者への『利用者評価アンケート』を実施し、その後、結果を管理者・責任者で「集計・分析」を行いました。

その後、平成29年2月に『利用者プリントでの中間報告』を行いました。同時に『職員による自己評価』を実施し、関わる職員で自分たちの評価を見直し、『利用者評価』と合わせながら、討議・検討を行いました。

ポイントは「現在、工夫している点」「これからの課題」「職

員と利用者の認識のずれ」などを明らかにすること、そしてその内容の共通認識です。それらを経て、公表する『自己評価表』が確定しました。

公表はブログにて行っています。また、デイ利用者への月間ニュースにもいくつか抜粋して紹介をしました。

<ぴーすの支援プランセンター：実地指導及び自己評価>

平成28年9月26日（月）に、堺市障害施策推進課の「特定計画相談の実施指導」を受けました。チェックしていただいた結果「重要事項説明書に、難病等対象者や24時間体制についての記載がない」などの指摘を受けましたが、「おおむね問題なし」という結果でした。

また、ぴーすの児童デイと同じく、平成28年度は『自己評価を作成する取組み』を開始しました。11月に保護者への『利用者評価アンケート』を実施。その後「集計」を行いました。分析・検討は時間を年度内にとることができず、次年度に持ち越しとなりました。

<法人事務局より>

① 空き巣被害

平成28年4月13日（水）未明、法人事務所がある施設に泥棒が入り、空き巣被害を受けました。被害は現金のほか、書庫やキャビネットなど備品の破損で、利用者からの預かっている個人情報、PC等データには被害はありませんでした。

事務所建物全体に防犯に対する意識の弱さを反省し、8月よりALSOK（総合警備保障株式会社）と契約。施設のセキュリティ対策を行うこととなりました。

② 退職金共催への加入

職員の退職金について、平成28年6月より『中小企業退職金共済制度』に加入しました。職員の意欲の向上、人材の安定確保、安心して働ける職場にと繋がっていくものだと思います。

現在7名の常勤職員が加入しています



その他

■■ ぴーすの職員が受講等した研修 ■■

▼法人内研修

実施日	研修テーマ	対象
5/17 5/20 6/17	研修制度の説明・個人情報の取り扱い・車両研修	全職員
6/30	不思議な行動Q&A～感覚の違いについて知ろう～	一般職員
9/23	言葉の発達とコミュニケーション	一般職員
10/27	障がい者差別解消法・不審者対策・発達障害の啓発・理解・コミュニケーションワーク	全職員
12/15	理解を助ける支援：本人も家族も楽になる支援～我が家の構造化～	一般職員
1/12	軽度発達障害児の学習	一般職員
1/19	理解を助ける支援：ひとりのできる～活動・方法の構造化～	一般職員
1/26	理由ルールの伝え方（ソーシャルストーリー）	一般職員
2/9	語ろう！思春期の悩み～先輩をむかえて～	一般職員
2/21	手順書・マニュアル製作会	一般職員
2/24	性のワークショップ	一般職員
3/4	えんばわめんと堺「境界線って、なに？」	ぴころ

▼法人内OJT研修

実施日	研修テーマ	対象
11/14	ぴーすの児童デイ ぼんだ、指導員研修	事務局
12/14	ぴーすの児童デイ ぼんだ、指導員研修	事務局
1/11	地域活動支援センターばれっと おもちゃ図書館、保護者対応研修	ぼんだ
1/18	ぴーすの児童デイ ぼんだ、指導員研修	事務局
1/24	ぴーすの児童デイ ぴころ、指導員研修	ぼんだ
1/26	地域活動支援センターばれっと 情報交換会、支援員研修	事務局
2/6	ぴーすの児童デイ ぼんだ、指導員研修	ぴーセン
3/4	えんばわめんと堺「境界線って、なに？」	ぴころ

▼法人外研修

実施日	研修テーマ	主催者	受講者所属事業
4/12	会社の組織づくり	さかい障がい児放課後連絡会	事務局
6/15	NPO 向け説明会	NPO法人サービスグラント	ばれっと
8/3	発達障がい支援セミナー	YMCA 総合教育センター	ばれっと
8/23	三つ折りパンフセミナー	NPOのためのデザイン	ばれっと
9/26	直接支援する時に困ってること	さかい障がい児放課後連絡会	ぴころ
10/4～3/14	NPO マーケティング個別研修（全8回）	堺市市民協働課	ばれっと
10/22	子どものためのソーシャルスキル支援	NPO 法人クララ	ばれっと
10/25	PECS の発達障害のある幼児の事例発表会	ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン	ばれっと
10/28	障がい児の教育のABCを学ぼう会2016	あたらしい風の会	ぼんだ
11/5	発達障害の子どもへの理解と支援	NHK 大阪放送局 厚生文化事業団	ばれっと・ぴーセン
11/12	子どもが描く絵から見える発達と課題・育児・教育	堺の障がい児教育をよくする会	ぴーセン
11/17	子どもを性暴力から守るために	ウイメンズセンター大阪	ぼんだ・ぴころ・ぴーセン

その他

実施日	研修テーマ	対象	
11/18	発達障がいのある子どもの子育て（思春期編）	大阪市立男女共同参画センター	ぼんた
11/18	マカトン法による言語指導の実際	NPO 子どものこころと発達支援会あんだんて	ぼんた
11/19	発達障がいのある子どもへの有効な関わり方について	すこやかネット	ばれっと
11/21	不登校児の理解と支援～学校と福祉の連携から～	堺市子ども家庭課	ぼんた・びーセン
11/24	障がい者虐待防止・権利擁護研修	大阪府福祉部障がい福祉室	ぼんた・びころ
12/12	新人が困っていることを管理者がどう把握・反映するか	さかい障がい児放課後連絡会	ぼんた
12/24	野澤和弘氏を招聘して、み・らいず人権研修	NPO 法人み・らいず	ぼんた
1/20	障害があっても遊びたい!!遊べる!!	Motsutami	ぼんた
1/22	自閉スペクトラム症知覚体験 システムができるまで	NPO 法人チャレンジ・クラブ	ぼんた・ぼんた
1/22	親支援コーディネーター養成講座：オリエンテーション	堺市企画総務課	ばれっと
1/22	障害児・者 性教育セミナー	人間と性” 教育研究協議会障害児・者サークル	ぼんた・ぼんた
2/4	愛着に課題のある子どもの理解と支援	NPO 法人えんばわめんと堺/ES	ばれっと・ぼんた
2/4	自閉スペクトラム症 発達障害の問題行動の対応	大阪自閉症協会	ぼんた
2/7	運営力強化セミナー「NPO の融資や資金を学ぶ」	堺市市民人権局市民協働課	事務局
2/10	子どもの目線に近づいて支援するための方法	さかい障がい児放課後連絡会	びころ
2/14	堺市の放デイ等の他事業所を知る	さかい障がい児放課後連絡会	ぼんた
2/15	発達障害のある子どもの理解と対応	堺市子ども家庭課	ぼんた・ぼんた・びころ
2/18	親支援コーディネーター養成講座：対人トラブル	堺市企画総務課	ばれっと
2/26	いま求められている支援とは	帝塚山大学	ばれっと・びころ

▼法人外OJT研修

実施日	研修テーマ	対象
7/8	児童発達支援事業所 見学 きすな えると	びころ
10/13	さかい障がい児放課後連絡会 北区地域会の集まり 会議参加	びころ
11/18	堺市障害者相談支援専門員協会 講師派遣同行	びーすの支援プランセンター
11/30	堺市立第1・2つぼみ園 施設見学	ぼんた・ぼんた
1/17	堺市立第1・2つぼみ園 つぼみ園コンサート コーディネーター同行	ぼんた
2/2	輪母ネットワーク・大阪市生野区社会福祉協議会 講師派遣同行	ぼんた

▼法人外研修（キャリアアップ）

【相談支援従事者 初任者研修】

7/20～8/23の間の5日間 5日課程を受講

びーすの児童デイびころ 若山ナナ子

【相談支援従事者 現任者研修】

11/1.～18の間の3日間

びーすの支援プランセンター 松本尚子

地域活動支援センターばれっと 山本明美

【強度行動障がい支援者養成研修】

9/13、10/2の2日間

びーすの児童デイぼんた 木戸口未来

【あい・さかいサポーター養成研修】

堺市が実施している研修。平成27年度から、認定こども園・幼稚園・事業所等、子どもの発達支援に携わるすべての機関において、発達障害など特別な支援を必要とする子どもとその家族に適切な支援を行う人材を育成するための専門研修です。

その他

研修期間は2カ年で、平成27年度の『第一期』に、ぴーすからは5名が受講しました。

平成28年度の研修内容：

「あい・ふあいる」活用の実際、カウンセリング～援助者のあり方を考える～、個別支援計画の作成と活用・施設における支援体制、発達～胎児期から青年期まで～、堺市の障害児支援体制と福祉制度など、大人の発達障害・精神障害、実践報告・交流会。

<ぴーす受講者名>

ぴーすの児童ティバんだ	喜多野由莉
ぴーすの児童ティピこ	船越 雅代
ぴーすの支援プランセンター	東 暁史
〃	〃
〃	西浦 眞実
〃	〃
〃	更井 朱美

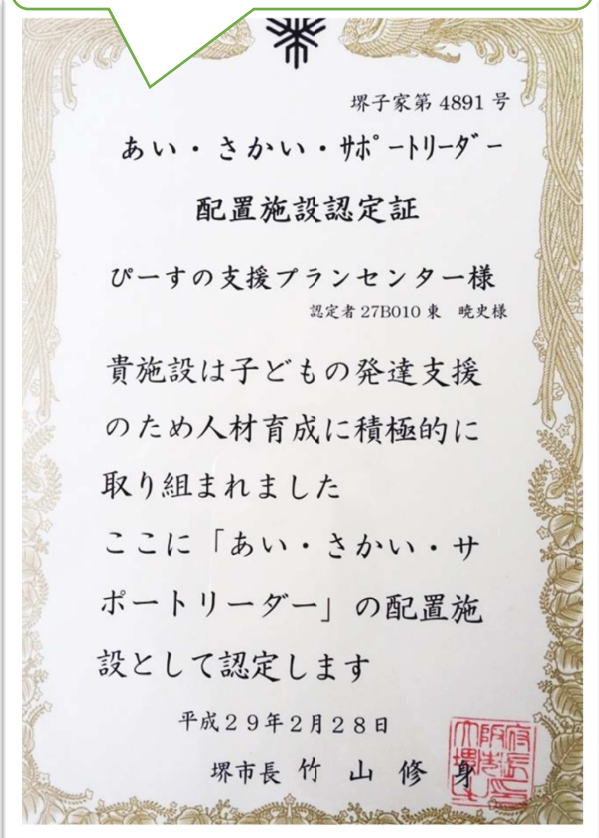
全員に『あい・さかい・サポートリーダー認定証』が授与され、各職員の従事事業所は配置施設として『配置施設認定証』が発行されましたので、掲示をしています。



全職員研修
「不審者対策」
アルソックさん
『さすまた』の使い方
実演



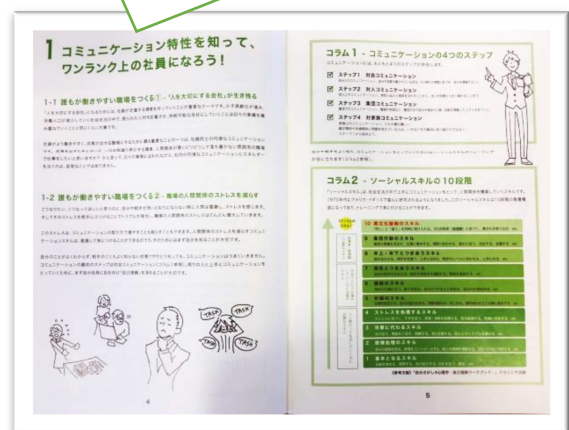
あい・さかい・サポートリーダー認定証



あい・さかい・サポートリーダー認定証 @ぴーす玄関ホール



全職員研修「コミュニケーションワーク」



■■ 各事業の説明 ■■

<地域活動支援センター ぱれっと>

事業形態 障害者総合支援法 地域活動支援事業 堺市委託事業『地域活動支援センター生活支援型Bタイプ』

対象 0歳からの全年齢の障がい児者及び家族

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 火～土：10：30～16：30

実施内容 ①日常生活支援 ②生きがい仲間づくり支援 ③地域関係機関との連携 ④プログラム（グループワーク）支援

<ぴーすのあい・すてーしょん>

事業形態 児童福祉法/障害児等療育支援事業

対象 0～18歳の福祉サービスを利用しないお子さん・保護者/保育所・学校・児童福祉サービス事業所など

事業窓口 地域生活支援センター ぱれっと

実施内容 ①訪問相談 ②来所相談 ③集団療育体験 ④個別療育体験 ⑤施設支援・助言など

<ぴーすの児童デイ ぱんだ/ぼんた/ぴころ>

事業形態 児童福祉法/児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業

対象 幼児～高校3年生までの児童発達支援、または放課後等デイサービスの支給決定を受けているお子さん

実施場所 ぱんだ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-19

ぼんた：大阪府堺市北区百舌鳥本町3丁 8-17

ぴころ：大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 22-2-102

実施日時 月～土：10：00～17：00

<ぴーすの支援プランセンター>

事業形態 児童福祉法/障害児相談事業 障害者総合支援法/特定計画相談事業

対象 主に、0～18歳の障がいや発達に不安のあるなどのお子さんの保護者

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 月～金：9：30～17：30

<キッズサークル ぶらむ>

事業形態 堺市補助事業/堺市障害児放課後活動等支援事業

対象 小1～高校3年生までの障がいのあるお子さん（福祉サービス受給者証は不要）

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 土・日曜日および長期休み：11：00～17：00

実施内容 ①鉄道クラブ ②自主グループ

<生活支援グッズのお店 ぽっしゅ>

事業形態 ぴーすのオリジナル市民活動

実施場所 大阪府堺市北区百舌鳥梅町3丁 39-32

実施日時 火～金：10：30～16：30 土曜日：11：00～17：00

<企画広報局 コミュニティビジネスチーム>

事業形態 ぴーすのオリジナル市民活動

実施内容 ①メールニュース『ふぁにい』 ②キッズサポートセンター・アドバイザー業務 ③講師派遣 ④視察受入れ
⑤アンケートやヒアリング調査強力など

平成28年度 年間利用者実数・延べ数・活動数等 集計

▼地域活動支援センター ぱれっと

プログラム	回数	人数
よろず相談・情報提供	243	495
個別来所相談(予約等)		203
居場所提供:自主活動サポート	243	516
さをり織り「豊明の世界展」		62
北原なるみの世界		33
松浦ゆうきの作品たち		39
啓発/余暇情報等仲間づくり	243	43
おもちゃ図書館 /おもちゃスペシャル	51	274
しゃべり場	24	228
鉄道スペシャル	5	88
小さなセミナー	28	138
【特別開催】こども防災ワークショップ	1	9
【特別開催】啓発活動ミーティング	1	2
合計	839	2130

A = 年間のべ活動回数

A B

B = 年間のべ利用者数

契約登録者数	72
上記以外の利用実人数	480
実通所者数 合計	552 ※

▼キッズサークル ぶらむ

プログラム	人数
鉄道クラブ	116
自主 ランニングチームOne	66
自主 いるか	93
自主 カラフル	12
年間のべ利用者数	287
ぶらむ利用実人数	61 ※

▼生活支援グッズのお店 ぼっしょ

店舗のべ利用者	412
ネットショップ等利用件数(店舗以外すべて)	504
のべ利用者数 合計	916
販売件数	2353

▼NPO活動関係事業 集計

年間利用実人数 総合計	613 ※
年間のべ利用者数 総合計	3333

★びーすからの情報発信

月	ニュース ふぁにい	ブログ
4	23	6
5	27	15
6	35	12
7	34	8
8	32	16
9	40	10
10	27	10
11	38	8
12	30	12
1	32	9
2	30	10
3	33	9
合計	381	125
年間合計発信総数		506

★NPO法人の会員

びーす正会員	22
ふぁにいメイト	95
合計	117

■びーすのあい・すてーしょん

	のべ利用	児の実人数
療育支援 相談件数	357	75
特別支援 利用者数	138	24
合計	495	99 *

■びーすの支援プランセンター

年間 相談件数	814
年間 利用契約者数	148 *

■放課後等デイサービス及び児童発達支援

	ばんだ	ぼんた	ぴころ
児童発達支援	8	1	34
放課後等 デイサービス	35	25	17
年間契約者 合計	43	26	51 *
年間 延べ利用数	2247	1849	1773

■指定事業等関係事業 集計

年間利用実人数 総合計	367 *
年間利用延べ数 総合計	7178



平成28年度 事業報告書

【制作】特定非営利活動法人 ピーす

〒591-8032 堺市北区百舌鳥梅町3丁39-32

TEL 072-250-9060 FAX 072-250-9061

Mail p-office@p-s-sakai.net HP <http://p-s-sakai.net>